京城日報
(大正三年十一月九日第三種郵便物認可)

歴史上より見たる朝鮮の統治

文學博士 白鳥庫吉氏談

私は朝鮮に於ける、人文地理、歴史の研究に就ては、餘程以前より趣味を持つて居た[illegible]漸くにして就任されたる當時、朝鮮の研究は最も緊要なるものなればこそ、特に我輩に囑託して、研究せよとの事にて、多大の經費を以て、諸種の研究を遂げました、其結果より得たるものが今日御話する大體でありまして、即ち鮮滿に對する私の批判であります、今度後藤男爵より特に、鮮滿の歴史上の話を爲しては如何とのことで、喜んで承諾したので、私から乞ふでも、話したい次第であつたのです、諸君の前で此話をする事は僕に光榮と存じて居ります、今を去る事十三年明治四十一年、私は鮮滿の土地は、日本に密接なる關係があるから、調査の必要を感じ、夫れより以前既に日露戰爭の當時より研究を始めて居たのでありますが、時尙早くして、是れを容れて呉れる人が無かつた、けれども、尙熱心を續け有志五人で、滿鮮地理、歴史の研究を行ひました、其の後滿鐵に於て關係して貰つた間が、滿七年間、其次に帝大の文科へ移し、連續的に研究しましたが、其間の成績は、滿鐵の關係時代に於て、滿洲地理歴史として四冊、朝鮮として二冊、外に文祿の役に就て四冊、地圖百枚を得、大學文科に移してより年三百ページの雜誌と外に六百枚の書籍一部是れを合せて今では八冊ある、爾此結果として、東洋の研究科へ敎授として帝大に二人、早稻田大學に二人、陸軍は一人を提供した、實に是れは滿鐵の賜物である、全く總裁理事の方の盡力の結果である、然るに此研究に就て未だ如何なるものも發表するに至らざるは甚だ遺憾でありました、今日は洵に幸ひなる機會でありまして、親て此研究は地理、文化、制度習慣等より歴史に互り編纂したのでありますが、今日は文化の方面の事を話します、著書として十三冊計りでありますが隨分と苦心したのであります、鮮滿の史論として三四千年に亙る事實を一時間乃至二時間で話すのですから困難でありますが時は一分間に千年も經過する樣な事があるかも知れません御承知置を願ひます

朝鮮の民族と土地の關係は如何

なるものかと申ますれば、興安嶺の山脈を境として東の地、北は黒龍江の河口より日本海沿岸以西の邊の民族に依りて出來て居る即ち一は黒龍江以南松花江よりウスリー流域の地の民族と一は遼河の流域長白山脈以東のものとの混加で是れは日本民族の血を加へて三城の地の民族の構成をなるのであります、更に亞細亞大陸としては印度より西藏の平原を一線として北方は遊牧の民で亞細亞を南北二分して南の方では印度西藏の平原と支那大陸と日本との三段になつて居ます此の地域に依りて亞細亞の歴史が組立てられて居るので[illegible]民族はウラル、アルタイ民族と申してツングース民族は日本海より西の地であつてツングースの東に蒙古人西が土耳古民族大山の南に當ります其れより西はフィンランド、ハンガリーの民族を以て世界の三大民族としてありますツングースと云ふは遼河の邊て蒙古人と混合して居ります、朝鮮半島の民族は如何なるものかと申ますれば今日迄一向に學界では說かれて居らぬ、朝鮮人は如何成人種なりやと云ふに風俗、習慣、骨格、言語と研究すれば言語はウラル、アルタイ語である骨格は日本と同種で[illegible]亦日本と同じ物が多い併し[illegible]那語もありますテニヲハの關係は日本の語が混じて居る、是れは如何なるものかと謂へば

朝鮮は大古より三つの勢力の及

んで居る土地で即ち北方と南方と東方の影響を受けて居る其れは海岸は日本の影響を受け北方はウラル、アルタイ民族に化せられ南は支那に化せられて居る政治上では何れの勢力に屬して居るやと謂へば歴史以前には北方の勢力に支配されて居たのである併し言語はウラル、アルタイ種であつても血液は日本民族の血が大に混つて居た事は種々なる證明がある大證に朝鮮の總ては北方の民族に依りて化せられて居たが支那よりも北方の勢力に從つて居たのである然らば日本が朝鮮を併合して如何にするかと云ふ問題は是れは私の話す限りではない歴史時代に入りましては支那の盛周の時より戰國時代に至るまで山海關へ侵入して居た、漢民族が起つて後は鴨綠江を渡つて平壤に箕子の政府を組織しました而して唯今の平安道、京畿道邊は支那の殖民地として居りました朝鮮と云ふ名稱は支那人の命じた名であります後には忠淸道邊に迄勢力が及びました是れは支那の秦、漢の時まで續いて居た秦が亡びまして後に漢の武帝の時朝鮮は納に亡ぼされんとした(つゞく)

大規模の經濟連絡

倫敦デーリーテレグラフ紙は曰く『首相ロードジョージ氏は昨週下院に於て失業問題につき述べたる際政府は英國をして大規模に中部歐洲と經濟連絡をなし得せしむるため信用保險制度を設定するの可能如何につき銀行業者製造業者其他の實業家等を委員に任命し積極的協議をなさしむる事とせり』と言へり(倫敦十二月二十八日發電)

フューメ陷落す

巴里來電に曰く伊太利政府軍司令官カヴィリア將軍はフューメに入れり戰死四百名負傷數千名を出しダヌンチオ氏も負傷したり(倫敦十二月廿九日發電)

日本人口問題

イブニングポスト所論

本日のイブニングポスト紙は最近の國勢調査の示せる日本の人口稠密につき陳述して曰く(倫敦十二月二十九日發電)今日露國又は支那の人口過少なりと稱せらる地域に赴く日本の移民はタトへ右領土が日本の國旗の下に歸するともさのみ多からざるべし日本の人口問題に對する解答は唯一あるのみ若し日本にして亞細亞大陸に著目し其工業原料を獲得し且つ其の製品に對し其所に大市場を造り得ば日本は優に其の國內人口の全部又は大部を扶持し得べし日本の思想を有する日本人は斯かる海外發展のプログラムの裡には到底政治上侵略領土擴張主義を容るゝの餘地なきを認め居れり須らく西洋國民は其の人口に對する日本の憂慮が如何に甚大なるかを認識し日本を援助し日本をして平和裡に其の國運の歸趨を發見せしむべし

發行兼編輯人 奥田[illegible]
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社 京城日報社
電話番號長六千九番 二 (振替京城三〇〇)

東京大雪

東京は舊臘三十一日朝より降雪間斷なく元旦の帝都は大降雪中に一日を終れり併も一日夜に入るも雪猶止まず盛に降雪を見つゝあり(東京特電)

露國要塞兵の叛亂

莫斯科よりの報に依れば同地要塞兵の一團は叛旗を飜へし砲兵隊を占領せんと企てたるが過激派政府軍之を彈壓し叛徒の武裝を悉く解除せり兩軍の死傷は多數に達し莫斯科への進路は目下騎兵隊が警備し居れりと(巴里十二月廿九日發電)

信用せられた勞農政府

英露通商につき兩國間には未だ公式の協定あらざれども英國內の商人は個人の資格にて取引するの危險を冒し勞農政府と通商をなしつゝあり(倫敦[illegible]發電)

釜山港の貿易概況

釜山稅關統計課調査

大正九年度の釜山港貿易概算額は輸移出七千五百二十三萬餘圓輸移入五千四百六十萬餘圓合計一億二千九百八十三萬餘圓輸移出超過二千六十三萬餘圓にして

前年に比し

輸移出一千四百十五萬餘圓(一割六分)輸移入一千八十四萬餘圓(一割七分)[illegible]を減退せり由來當港の貿易は其の發展頗る顯著にして大正元年以來朝鮮各港の首班に位し歐洲戰爭勃發以降財界好況の餘澤を受けて輸移出超過を持續し常に全鮮總貿易額の三割強を占めつゝあり然れども本年三月中旬內地株式界の混亂に其の端を發し[illegible]銀行其の他事業界の破綻續出し財界の波瀾重疊たるや

我が朝鮮は

四月下旬より漸次之れが影響を受け當港に在りては五月に至りて初めて貿易額の減退を示し爾來母國諸工業の不調、內鮮各種工業の休縮、金融梗塞に基く仕入手控へ米價暴落に因る購買力減退、虎疫の流行、鮮人の騷擾及思想の惡化、支那に於ける日貨排斥及銀相場の騰落等幾多の障碍に[illegible]出せしが輸移出に在りては(一)海苔、生絲、人蔘、綿絲及牛皮等は內地の需要急減取引等は全然其の影を絕ち[illegible]今移出入重要品の

消長を觀察

するに輸移出[illegible]代の契約に基き前年に比し數量增進に因り一割乃至十三割の[illegible]及び農家の資[illegible]に因り(二)大豆及び牛皮は主として製油業及皮革業の休縮に基き(三)魚類、乾魚、海藻及び肥料等は不漁、相場低落[illegible]流行又は日貨排斥等の影響にて(四)綿花は相場の瓦落[illegible]變更及び鮮內消費の增加に因り(五)[illegible]綿價の[illegible]

發展に因り

孰れも數量[illegible]價(肥料は價格)一割乃至五割減退し輸移入に在りては(一)粟、(二)石油は供給過剰[illegible]需要增加により(三)軌道、自動車、汽船、諸機械類及び鐵道枕木等は交通機關及び工業の發展並に稅制度改正の影響にて(四)陶器、汽罐、陶磁器及肥料は價格一割乃至四百五十餘割を增進せしも(一)米は外米の輸出禁止及代用食品の入增に因り(二)食鹽、砂糖、麥酒、打綿絲等は在荷豐富、相場暴落、消費節約又は

購買力減退

等に基き(三)石炭は各種工場の休縮及減額用炭節約方法變更の影響にて(四)木材及板は建築界の不振に因り(五)以綿及綢は鮮內產物等の[illegible]不振に因り孰れも數量(木材及板)一割乃至九割を減少せり斯の如く本年の貿易は財界の變動に因り極めて深甚なる打擊を受けたるに拘はらず前年に比し價格二割弱の減退に過ぎざりしは前年の好況が四月まで躍進的に其の發展を展へたる結果なり然れども出增又は入增せる

重要品の多

くは反て貿易商の窮狀を大ならしめたるものにして歲末內地米穀不買同盟の影響に因り米の移出旺盛を極め幸いては精米業運送業等の殷賑を來せしも之れ畢竟一時的の現象に止まるべく母國財界の不安定世界的產業の不振等を顧みれば大正十年の本港貿易は未だ遽に逆睹すべからざるなり

李王附武官の更迭

舊臘二十八日左の如く辭令あり(東京特電廿延著)

李王附武官被免 朝鮮軍司令部附 步兵中佐 申錫均

李王附武官被仰付 同上 步兵大尉 柳冕聖

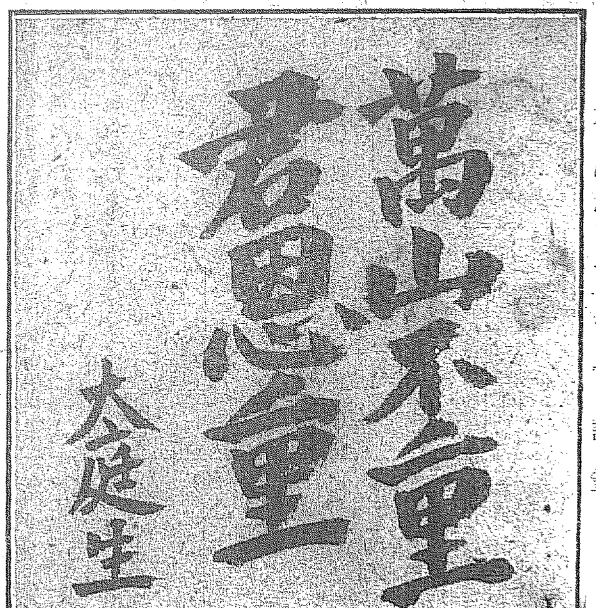
井上角五郎氏來鮮せん

朝鮮總督府に於ては十年度豫算より朝鮮農事改良會社の補給金を削除することゝなりたる由にて之に就き井上角五郎氏は舊臘三十一日東京驛發途中伊勢參宮の上五日頃京城着の筈なりと(東京特電廿延著)

連帶區間擴張

朝鮮線對价川輕便鐵道連帶取扱ひ區間中朝鮮線の部を擴張し今一日より實施する事となりたるが新たに追加されたる驛は旅客手小荷物に於て新義州、穀物に於て釜山、仁川、龍山、西湖、宮川間各驛なりと

總督官邸の受賀(左齋藤總督、右水野政務總監)と公會堂の名刺交換會



大庭軍司令官試筆

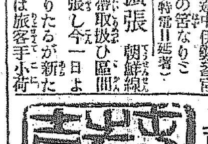
日本移民問題と日英同盟の改訂

華盛頓駐劄濠洲政府代表者マーク、セルドン氏は日米移民問題につき語りて曰く

濠洲は米國が日本移民に差別的待遇を與へんとする事に喜んで協力するものなるが問題が英領植民地と關連する限り本國政府の手を通じ各屬領植民地間の協定に待たざるべからずと、而して之を最近ロッヂ氏の市俄古に於ける演說と併せ考ふる時は米國に於ける亞細亞人の移民が英米兩國の共通利益のために共同して排斥さるゝの傾向現れ來れり右の新現象につき『紐育タイムス』紙は曰く

英領植民地の日本國民に對する態度はロッヂ氏の演說に依りて初めて暴露せられたるものに非ず其の因つて來る事遠く其結果來年改訂せらるべき日英同盟條約に影響する所あるべしと又倫敦よりの報道に依れば日英同盟の改訂を眞面目に考慮中なるが屬領植民地の壓迫を避けて其都合よき樣改訂さるべく餘儀なくさるべしと又華盛頓ポスト紙は其社說に於て次ぎの如く述べたり(倫敦十二月廿九日電發)

日本の人口は近來增加の一方にて朝鮮及滿洲に移住の必要に迫られつゝ有が日本の移民が惡氣候さへ厭はざれば工業用勞働者の外は盛に同地方に出してよき譯なり又日本が亞細亞大陸より工業の原料を輸入し亞細亞大陸に工業品を輸出する事も出來る故此二方法に依り日本人口增加問題は一面解決せらるゝと同時に歐洲諸國も日本の立場に同情して平和的方法を以て日本の移民問題を解決する事に援助を與ふるならん



春光先到吉人家

文日

佐山氏刀
段南東乘

寸碧

齋藤總督が襲に大正十年度の豫算打合せの爲め東上した時の話である▲島村軍令部長に逢ふと『齋藤君は矢張り酒を飮んでゐるのか』と云ふ總督が『ウン少しやつてゐる』と無造作に答へると『君は一體どんな酒を飮んでゐるのか』と來たものだ▲それで總督は『我輩は朝鮮の地酒を飮んでゐる』と云ふと島村軍令部長は『君が飮む分は朝鮮の地酒であらう』と何であらうと聞はないが人には少し好い酒を飮ませろよ』と來たものだ▲そこで總督は『君は最近朝鮮に來たこともない癖に酒の批評とは驚いた一體何を見てそんなことを云ふのか』と段々問ひ詰めて見ると▲先頃總督が寺尾亨氏に御馳走したことがあるその寺尾氏が東京に歸つて『齋藤君の御馳走はよかつたが酒には閉口した』とか何とか島村軍令部長に訴へたものらしい▲それが知れたので後では大笑ひになつたそうだが總督は朝鮮に居る間は朝鮮の地酒を飮むことに極めて重に馬山で出來るものを用ゐて居られるそうだ▲が實を云へば總督はそんなことには一切無頓著なのださうな。

婦人画報
新年特大
女性美號

名流婦人のお化粧法
一、入浴とお化粧と[illegible]
一、佛蘭西製の白粉を使つて[illegible]
一、舞踊と諸曲で姿勢を[illegible]
一、先づ衣服の選擇を[illegible]
一、押化粧は自然のまゝを[illegible]

私の望む婦人 諸大家
私の望む男子 諸名流夫人
▲婦人論壇
▲美人と云ふ言葉[illegible]
▲平民的な松平[illegible]
▲檢定合格の小杉天外氏令孃[illegible]
▲華西夫人の噂[illegible]
▲私を繞つて來た美人の運命[illegible]

お正月の好讀物
○藝術の民に[illegible]
○伊太利の少女[illegible]
○今の郎內夫人[illegible]
○沙翁名畫物語[illegible]
○お正月お伊勢詣
○お樂み[illegible]
○新年の挿花に[illegible]
○今年のお正月に流行の[illegible]
○東京と大阪の婦人の好み[illegible]
其他 村[illegible]赤子、杉浦翠子、中原綾子、三宅安子、小寺菊子、高安やす子、水谷まさる諸氏の詩歌と新曲[illegible]

新年大附錄
短篇小說 或人の手記
短篇小說 雪に埋れて
短篇小說 二人の下婢
短篇小說 春の夜
長篇小說 結婚の空想
長篇小說 毒の華
長篇小說 戀を裏切る女

本號 定價[illegible]
東京京橋區[illegible]
振替東京四九〇〇 東京社

美人となる秘訣
すがた美しくする秘法[illegible]
容貌美を司る眼の美化法[illegible]
ひくい鼻を高くする秘術[illegible]
頭髮を黑く美しくする秘法[illegible]
齒を白くする法[illegible]
美人の[illegible]

●美人心理[illegible]
●美人八相[illegible]
●女性美を保つ體育法[illegible]
●現代美人列傳[illegible]
●世界的美人の[illegible]

女性美觀
○女性美の哲學的解釋[illegible]
○人間らしき女性[illegible]
○歴史及文學に表れたる女性美[illegible]
○鍼灸上の美、醫學上より見たる女性美[illegible]
○科學と體操の女性美[illegible]
○愛と社會的表現[illegible]
○女性美の三要素[illegible]
○女性美[illegible]
○現代より將來の女性美[illegible]
○年齡上より觀たる[illegible]
○私の觀たる日本各地の美人[illegible]
○外國婦人の觀たる日本婦人[illegible]

見よ華々しき本誌の內容を
▽表紙「[illegible]」
▽口繪「羽子」(極彩色)
▽口繪「冬の郊外」(油繪)
▽口繪「山の湖」(油繪)
▽寫眞 本誌獨特のもの[illegible]

職業
專賣特許品[illegible]
男女自宅[illegible]
具一切貸與[illegible]
步合[illegible]
[illegible]日三圓位[illegible]
無料[illegible]
進呈 特約店大募集
大阪天王寺大道一丁目三九一八
豊國商會

自由文壇 新年號 出來
送料共四十六錢[illegible]
賞文藝の大募集あり東京
麻布谷町振替東京五三一一
九七 自由文壇社

平和な元日

四温日和の曇り日に 歡びの聲全市に滿つ

初鷄の聲牢を潛ぐ聲に眩轉、大正十年新春の黎明は素絹の如き曇天の雲を東に染め東天より白み初めたる新春の瑞氣京城の天地を罩む。春らしい暖氣に南山の翠はさらでも色を濃くし京城神社々頭の常盤木を僅に醉ふた廻禮の人々賑やかに往來し春らしい四温日和の長閑な正月は晝を過ぎた。午後は追羽子の兒等を驚かす御降りの雨がシットリと大天地を濕ほして春氣漸に迫り平和氣分漲る町々は夜を迎へ更に靜かな元旦の夜は平和に更けて行つた。

◇初詣で◇

歲旦の御儀

大正十年一月一日宮中にては兩陛下葉山御用邸に御避寒中なるも午前四時より賢所皇靈殿神殿の御神饌を奉仕し御拜の儀を嚴かに行はせられ侍從御代拜を奉仕し再び奏樂裡に御殿御閉扉各員退下し茲に歲旦の御儀を終らせられたり(東京電話)

聖上御遙拜

葉山御用邸にて

天皇陛下には一月元旦五時三十分御起床の南庭に出御親しく四方拜の御儀を行はせらるゝ筈の所葉山御用邸に御避寒中に就き御取止め遊ばされ御用邸御座所に於て御遙拜遊ばされたり(東京電話)

曙の色は紫宸殿此の上もなく、社頭の曙を面の當り拜みかむ心地して敬しさも敬しく早朝より崔十禰に初詣の善男善女は匣を接して社頭に額づき身の幸を祈りつゝ柏手の音が元旦の靜寂を驚かし神前の鈴の音もくゝ神々しい響を傳へた。市中は本町通りを初め戸毎に或は幕を張り廻らし大戸を下ろし注連を張り正月氣分は靜かな長閑さの中に漂ひ國旗の翻る和やかな春風も新春の景物であつた。府内の各學校は午前十時一齊に拜賀の式を擧げ銀行會社でも夫れ〴〵拜賀の式を擧げ目出度く御代を壽ぐ萬歲の叫びの聲が戸毎に窓から漏る。戸外は紋付袴に居

總督邸

元日の受賀

大正第十年辛酉の新春を迎ふる總督官邸は殿に漲表されてる 參賀次第 の通り李王、李王妃殿下を始め朝鮮貴族在城親任、勅任奏任の文武官紳縉の參賀の客、腕車、馬車、自動車の轍を連ねて官邸に續き金色燦たる大禮服、漆黑の燕尾服、紳縉の影多参差こして集ふ所喇叭の音に新春の榮こ起る

喇叭の音 響潑し。此日齋藤總督は海軍大將の正装に大綬を佩び旭日章以下の勳章徽章は大將任年儼々たる武勳を誇らしげに胸間に燦として輝く、水野政務總監また文官金モール燦爛たる正装に

總督と共 に官邸第二應接室に並立各員の祝賀を受く長くも御眞影は總督の頭上高く掲げて御使ひ、在城の勅任官本官に奉安せられたり。李王同妃殿下御使ひ、在城の勅任官本官、奏任官、勅任官總代、所屬官署長官、李王職次官、中樞院副議長、顧問贊議副贊議、朝鮮貴族等

相前後し て總督の前に進み一々新年の賀辭を申し各自別室にて盃を擧げて聖壽萬歲を祝し無限の歡び笑語官邸より溢れ南山の松翠爲に搖ぐばかり午後も賀客踵を連ねて御光前影參禁こして打續新春第一日は暮れた

獨逸の正月

墺太利の春

あはれ、今年の元日や如何

第二十師團長 淨法寺將軍談

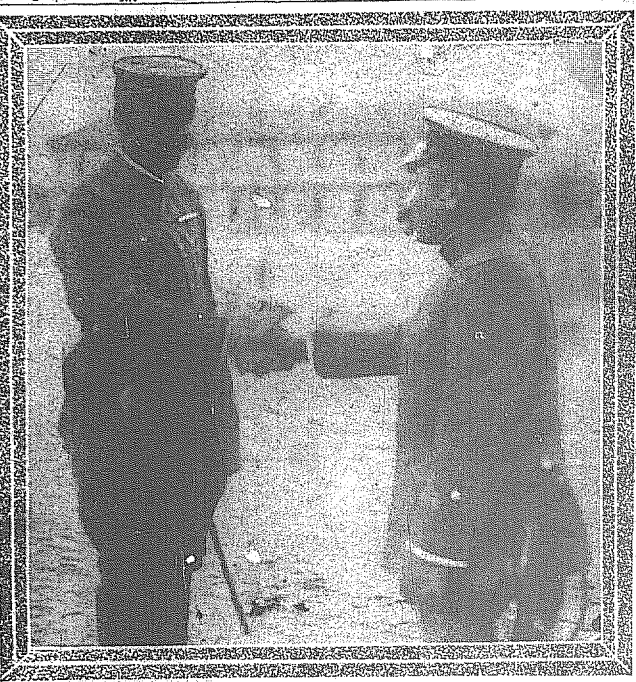
正月の追憶——と云つても急にた。招待の席でも『新年お目出度う』の聲がかゝる。クリスマスは新年の先驅であつて、クリスマスが來ると、誰もが口々に『幸福多き年をお迎へなさい』と祝福するのである。クリスマスは到る處、都會は云ふ迄も無く片田舍でも

湧いては來ないが、自分は曾て墺太利に駐附き武官として留學してゐた事もあり獨逸大使館附武官こして伯林の春を迎へた事があるだけに

春を迎へる毎 に追憶は其頃自分は少佐時代であつた。獨逸でも墺太利でも十二月の聲がかゝるこ總ての人の口から期せずしてクリスマス!!の聲が發せられる、クリスマスは彼等に取つては唯一の樂みである親睦知己からの贈物こ晩餐會の招待を指折り數へて待つのである。大人でも死で子供のやうに

クリスマスの 來るの自分もクリスマスには招待された

各戸歡聲に充 たされるが、正月の元旦は靜かなもので盃を高くあげては歡樂の酒に春を迎ふべく、何れも團欒して大晦日の晩から目出度いをある、大晦日の晩から目出度いを合圖しヒップヒップ、フラーを絶叫して夜を徹する代り、元日は各戸を閉して寢て仕舞ふ其の靜けさは都會でも人が住んで居らぬやうである



(右堀田大佐 左上坂少佐=二日朝龍山驛にて)

部下の將卒が良く艱苦に堪へた

上坂少佐談

部下の將卒が元氣で能く艱難と闘つて出征約百日間を野に山に露營して僅に一人の病死を出したのみである。隊は通春を距る約十三里の地點で南部烏蘇里に二三里を隔てた馬敵達と云ふ山間僻地の部落に陣營したが相手が強盜馬賊の類だから神出鬼沒する奴を一人二人と召し捕つて行くのだから非常に面倒だ賊は四に精勵したのは此上もない

新春の氣漲る二日の早朝

上坂大隊國境から凱旋

龍山驛頭萬歲の聲湧き 滿期兵には除隊の言渡

日の丸の國旗を交叉した凱旋列車は五百の貔貅を乘せて來た渡暗い二日午前七時十分萬歲聲裡に龍山驛に着した、是れより先き國境に出動であつた名譽ある

上坂大隊 を出迎ふべく淨法寺第廿師團長、大野軍參謀長、奥田第四十旅團長、堀田歩兵第七十八聯隊長等を始めこし軍及師團、旅團、聯隊の各將校百餘名に上阪小佐夫人を劈頭に出征將校夫人達が夫君の凱旋を歡迎にプラットホームは時ならぬ歡喜に滿ち萬歲の聲と共に列車は構内に入つた上阪大隊長以下四百七十二名の

將卒は頗 る元氣旺盛にプラットホームに整列し淨法寺師團長は凱旋の申告をして勇しい喇叭たる喇叭の吹奏と共に除隊堂々步兵第七十八聯隊に向つた午前八時營庭に於て堀田聯隊長の萬歲聲裡に散會した

全部は將校集會所に於て歡迎宴を開き盛に鯨飲して午前九時半の將卒を犒ふ挨拶があつて愈よ淨法寺師團長から

賜與され た一樽の上酒は四日午前で配盃を擧げ滿期兵は除隊が言渡されて欣喜雀躍の態であつた、聯隊の將校

聯隊の名譽

堀田聯隊長談

散して多く吉林方面に逃竄したらしい最う我軍の威力に辟易した彼等は再び襲來する勇氣はあるまい、隊が一番華々しい奮闘したのは十一月四日で前部春韓民會長であつた首魁李明淳の率ゆる約四五十の賊團と衝突した時であつた當時夕暮のこごて約二十メートルの近距離に迫り射擊したのだから戰闘と云ふより は狙擊したゞ隨つて我にも四名の重輕傷者を出した次第である首魁李明淳を射殺したので賊は四名の死體を遺棄して闇に姿を沒した然し此の戰闘に於て最も效果の著しいことは其後此の方面の不逞鮮人が續々と歸順して來たことである唯遺憾なるは少數とは言へ四名の死傷者を出したことだ因に上坂大隊の各中隊長は左の如し

副官吉田大尉、崎山大尉、近藤大尉、肥後大尉、寺尾大尉、倉田一等軍醫

去る九月七日我が上阪大隊が琿春に出動して三ヶ月間不便と戰ひ僅に一名の病死と一名の寒さ戰死に三名の戰傷者を出したるのみで使命を果して無事歸隊したのは聯隊の名譽であるそして朝鮮に第二十師團が創設されて以來初めての凱旋である將卒が此の如く士氣旺盛なのは何よりも結構至極である

初荷

轍の音も賑やかに

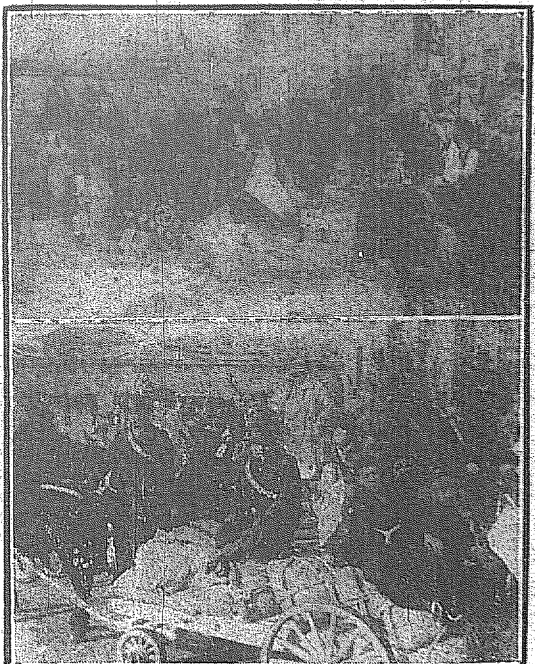
元日は暮れて二日は明けた初荷の外は未だ遣計で京城の天地は事の外で先づ南大門驛に初荷下しての雜踏さ加減は素晴らしいの一杯引つかけてのこごだか出荷する向では一ニ出の大ニコ〳〵斯くして では愛は取り〳〵の腰を先頭に樂隊をあしらつネヂ鉢巻こ云つた具合があるかと思ふと印袢つてからは到る處に威勢のいい聲が擧げられて荷を飾る小旗はゆら〳〵と陽らめいてゐる各自の揉先では戸に車を止めて萬歲を連呼し、『今年も相變らず』と將來を契つて廻る組も少なくなく初春の長閑な空氣が市中に漲つてゐた

名刺交換 吉例に依る京城官民の名刺交換會は元日の午前十時府内長谷川町京城公會堂に於て擧行定刻數百の官民三々伍々集まり挨拶ありて後、道知事の發聲にて天皇陛下萬歲を三唱し盃を擧げて後散會したが例年の盛況を呈せり

皇帝の謁見も 大晦日にある、自分も謁見を仰せ付けられ賀辭を奉呈したが、その頃の獨逸は本統に全盛時代であつた墺國も亦昇る旭日の勢ひであつた。自分は其の流れの間を泳いでゐた。今茲に目出度い春を迎ふにつけても、あはれ戰敗國の春は奈何であらう。思へば無量の感に堪へない次第である春は來ても樂い春を迎へられぬ

戰敗國の滲さ を思へば、漸く目出度き春を迫ふる帝國々民は全く幸福と云はねばならぬ、但し幸ひの裏には禍がある、平和の影には戰爭がある常に國民は是を念頭に置いて永久に目出度い春を迎ふるの覺悟が無ければならぬ——

四温日和で元日と云ひ二日と云ひ、立春の大氣天地に滿ちて晴れ渡ることこそ目出度き大正十年の



本社を訪れた初荷 (上)常盤商會 (下)玉置商店

地は悉く氷點以上に在りて例年に比し暖氣なり一日午後六時の溫度は京城零下〇八仁川一度一分不浦五度五分大邱六度九分全州一度一分等にして滿洲方面に在りては營口氷點下十二度奉天十三度一分等なりと

醉漢の亂暴 一日午後四時半頃鍾路通り一丁目で四名の醉漢が鍾路署李根義刑事を罵り賊だのと罵り又田村刑事に對して日本人だ殺してしまへなど不穩の言を弄し怒鳴り散らすので兩刑事は四名を制止せんとしたが醉漢益猛り立ち遂に雨中格闘の末漸く同町派出所に伴れ込んだ然るに相手方の内二名は派出所内で狂ひ廻り窓硝子を破り電話機を破損せしめるので詮方なく鍾路署に連行取調べの上元日早々眼から火の出る程の大眼玉を喰ひて引き下つたが此等は孰れも朝鮮商業銀行林善俊外三名であつた右事故の外本年元日雨天の故か至極平穩で警察の厄介になつた者は無かつた

撫順炭坑爆發

採炭苦力廿九名行方不明

三十日午後十時十分當地第二坑の一部瓦斯爆發をなし恰も入坑中の支那人採炭苦力二十九名行方不明となり直に救護、賑活動すると共に原因調査中なるが火災を起せるものに非ざれば三十一日中には復舊すべし(撫順特電)

元日の初強盜

入質に來た男が居直つて強盜となり店員を斬つて逃走

屠蘇氣分で天下太平を祝ひ千萬歲を壽で居る元日午後七時頃市内南米倉町三番地權下質屋に一名の男が薬用のオーバコートを十八圓に入質したしこ持ちかけたが五圓以上は不可能だこ拒絕したので件の男は隱し持つたナイフを閃めかして同質店支配人西福治の頭部に切り付け怯む隙に隣室に在つた五百圓入手提金庫を强奪逃走せんとしたるが福治は急を隣家に告げた爲賊は金庫を投げ出した儘姿を晦ました急報に接し其筋では極力犯人の搜査に力めて居る

元旦の氣溫

仁川測候所報

朝鮮に於ける元旦の氣象は概して曇天なるが三十日晩九州西部に低氣壓發生漸次本邦方面に向け北東進を續けたる結果三十一日より一日にかけ朝鮮一帶は曇天を呈せり一日午前鴨綠江及滿洲方面は降雪を見東南中部に降雨あり氣溫一帶に高く平壤以南の

旅行中年末年始映畫 高橋金吾

今明日

○一月二日(月曜)

▲元始祭

○一、四日(火曜)

▲消防出初式(午前八時より本社前にて)

新春興行

▲壽館 喜劇ニコ〳〵會一行(十一日)、座長一馬を始め蝶々、カオル、金樂、紅陽等の達者揃ひ、女優は松子を花形として三人、喜劇の間に社會劇も挾んで居るが巧いものである。元旦初日以來滿員の人氣を呼んで居る

▲浪花座 嵐信藏、中村重六一座の歌舞伎劇演、俳優は何れも腕揃で道具も衣裳も揃つて居る。新春の興行として劇狂の好評を博しつゝあり

▲大正館 新派悲劇として『忍駒』全六巻▲人情劇には『女は魔性』全五巻▲舊劇には『岩見重太郎』全六巻がある

▲黄金館 連續活劇『世界の蛾』▲『綠』全五卷▲舊劇『非伊大老』全五

▲喜樂館 舞台曲 橘家翁三一行の落語散

▲喜樂館 『舊年から人氣を吸集していあつた連續活劇『虎の足跡』は愈々佳境に入つて來た。舊劇には『加藤清正』一代記がある。新派には大阪城や熊本城のやゞ嘗がある。新派では山本一派『孤島の花』全五卷を併する

元日

三十日頃より

官衙にては遙拜式を行へり引續き終りて大池道評議員の發聲にて兩陛下の萬歲を三唱し一同乾盃散會したり午前十一時より宴山第一(?)小學校に於て 晴れ來り府内各運送店商家の初荷は漸次忙しく午前一時過ぐる午頃より雨晴れたり此日午前十時に式場に於て...雨の新年を迎へ氣溫攝氏三度正午前十時より小學校講堂に於て...行終つて名刺交換會を開き...

海州 朝來曇天にて氣溫攝氏四十二度を示す...

鳥致院 朝來曇天なれど午前十時より...

全州 午前十時より道廳に於て官民一般の拜賀式あり各...

統營 朝來曇天後雨...館各學校、守備隊、憲兵分隊等に於て拜賀式又は遙拜式あり正午七度八分を示したり...に至り漸く晴みたるが氣溫零下

第四期決算公告

(自大正八年十二月一日 至同九年十一月三十日)

貸借對照表

借方(資産之部)

汽船	二、〇五〇、一〇〇・〇〇〇
小蒸汽	二〇一、〇〇〇・〇〇〇
艀船	一六二、二五〇・〇〇〇
土地建物	四六七、七八九・四五〇
山林	一四七、八二一・八四〇
鑛山	一六五、〇〇〇・〇〇〇
什器器具	四四、七八〇・三〇〇
出資金	五七、五七〇・〇〇〇
有價證券	二、四三五、六三九・三〇〇
鑛洗滌工場勘定	一二、二三六・四一〇
自動車修理工場勘定	一六、〇四九・三四〇
直方鐵工所勘定	二三七、〇一六・三七〇
農林部勘定	一二八、八九四・〇六〇
支店勘定	一二、六八二・八八〇
船舶修繕勘定	三〇、四〇〇・〇〇〇
未經過船舶保險料	一二、五八七・五〇〇
船内準備金	一六、六六三・八二〇
船用貯藏品	二七、六九一・〇二〇
商品	二六、七五八・八〇〇
前入金勘定	一六、一七三・八一〇
貸付金	三七、八九〇・三〇〇
他店へ貸し	九一、一九〇・四八一
未收入金	四五〇、八七〇・一〇〇
假拂金	四二、九四一・七〇〇
銀行預金	二四八、八六五・一九〇
現金	三、〇六三・一一〇
合計	一九、二四三、七二一・五三〇

貸方(負債之部)

資本金	六、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
法定積立金	四〇〇、〇〇〇・〇〇〇
使用人救濟基金	四八、一二二・九〇〇
職員積立金	一〇、八〇〇・〇〇〇
預り金	七六二、〇五〇・〇〇〇
他店ヨリ借	六六五、三五三・一一〇
引受荷爲替手形	五九七、一九〇・二〇〇
支拂手形	四六五、九二九・六〇〇
借入金	六、五六〇、九九三・六八〇
銀行當座借越	
假受金	二三六、七〇七・五四〇
未拂金	四〇五、三〇三・〇〇〇
前期繰越金	三九一、三八〇・一〇〇
當期純利金	三九八、八六七・八四〇
合計	一九、二四三、七二一・五三〇

右之通ニ候也

大正九年十二月二十八日

京城府南山町二丁目四十四番地

株式會社中村組

取締役社長 中村精七郎

取締役 賀田錦太郎

取締役 堀内原作

取締役 馬淵貞介

前記ノ各項調査候

監査役 平田又左衛門

監査役 竹内鉄彦

謹賀新年

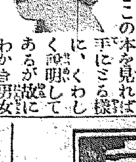
大陸通信社 松尾茂吉 京城黄金町

▲金より大事のひみつ辭典 (繪入)

はづかしくて人にきけない事はなせないこと、敎へられないこと等はそここの本を見れば手にとる樣に、くわしく說明してあるが故にわかき男女の多くの夜長に必讀すべき最大幸福最大快樂書である本書は定價二圓三十錢なれど今回大割引當選八拾錢こす希望者は至急申込あれ代金引換二圓〇四錢前金送料共壹圓八拾錢

東京神田區北紳保町一ノ一 千代田出版部 振替東京三八三七一

○北斗(?)文士百名顔(?)美人寫眞一組代無進呈す



文藝倶樂部新春增刊

凄い女強い男

◆四竹唄の源太 神田伯治

◆鐵砲おしげ 馬場春宵

◆月夜の眉間尺 小金井蘆洲

◆茨おふじ 玉圓

一萬石の殿樣が川の中へ笠を飛ばした時、宋根船の中から凄い女の白い手が出てこれを拾ふ、其手が伸びてお家騷動の元となる

◆戀の按摩 金鶯

盲目の身にも戀は知る。女の香に寄る若按摩が、めくら滅法の恋い淵に身を果す、浮世の嵐に住む怪しい女の正体!

◆河内山の甥 藤村福太郎

◆白井權八 森下與作

◆拳固和尚 如燕

ポカリと一つ見舞はれては、さあ來いと擁いた劍客もばかりに飛んで了ふ、人間離れのした奇怪物外の恐しい拳固!

◆白梅お民 煙亭

白ぱつくれた白梅お民が、鎌倉大名へ立ち入つて、お部屋樣と納つた化け姿、作者が趣向の書き振りは、鳥渡常世の草双紙

◆お小夜お嘉代 竹の島人

◆喧嘩小僧金次郎 泉斜汀

◆鐵棒修行 山貞

八貫八百匁の鐵棒を振り廻はす豪傑後藤半四郎が、時に凄しい人情な惑して、世間の味に觸れる所、宜し此の講談の妙趣!

◆流の白瀧 圓右

伊香保の歸りの出來心を、思ひもかけぬ道中に出來心の黑い悪い、凄い説誰れ知らまやと思ひきや、夜みの月が光つてゐた

◆名妓奴の梅吉 島田吊雨

◆七福神廻壽語錄 森曉紅

▽漫畫にはとり猩……

▽漫畫シルクハット……

▽漫畫醉拂ひ氣分……

▽ドヤ〳〵と綱曳き……

定價六拾錢 送料二錢半

東京市本石町 博文館

紙・惠方詣り 佐藤米卯

繪・おない年 鳴崖

朝鮮の奇談と傳說

史談・神話・古蹟往談・情話・笑話・奇談其他

京城本町 ウツボヤ書店 振替京城一〇一三 定價一円五十錢 美本

朝鮮鐵道の使命（下）

昨年に於ける鐵道網の發達こ本年の新計畫

和田鐵道部長談

鶴の群（昌慶苑にて）

新年度の諸計畫

次に大正十年に於ける國有鐵道の建築改良工事は豫算未だ決定せざることであるから確定的には云はれぬが財界不況に伴ひ中央政府に於て新規事業見合せの方針を執りたる上から鐵道建設改良の工事も新規事業としては特に注目を惹くものを豫想することを得ぬので大體九年度より繼續の工事を施行するの外はないが其の費額は二千萬圓餘に定まるべきことに豫想し得るので八九年度の千五百萬圓に比し約五百萬圓の增額となるのである之に依つて咸鏡線、鎭海線等の建設を進め京釜、湖南、京義支線の改良を計り或は九年内に受けた水害の復舊を完全にし其の他車輛の增備改良主要驛に於ける諸般設備の改善等を企圖し大體に於て豫定の如き進捗を期したいこ思つて居る

私設鐵道の發達

私設鐵道に付いては先づ大正九年中に免許したる私設鐵道としては（一）北鮮鐵道（二）北鮮興業鐵道（三）朝鮮京東鐵道（四）京春電氣鐵道（五）圖們輕便鐵道延長線及び（六）朝鮮森林鐵道延長線合計二百九十五哩であつて敷設を許可した軌道は京城電氣鐵道延長線一哩一分であつた今其の各鐵道の大體を說明すると

北鮮鐵道は菅原通敬外十六人の發起に係り資本金一千萬圓の株式會社を設立し、咸鏡北道羅津より會寧を經て訓戒に達する延長八十五哩、軌間四呎八吋半の蒸氣鐵道を敷設せむこするものである

北鮮興業鐵道は笠井愛次郎外十一人の發起に係り資本金一千萬圓の株式會社を設立し會寧より古茂山龍堂を經て慶源郡金洞に至る延長四十七哩軌間四呎八吋半の蒸氣鐵道を敷設せむこするものである而して上記兩鐵道は敷設區域接近し其の目的も近似して居ることでもあり又鐵道は出來得る限り總括し發起人も目下此の事に付いて奔走中である

朝鮮京東鐵道は香山弘外十人の發起に係り資本金五百萬圓の株式會社を設立し水原より驪州に至る延長百十三哩軌間四呎八吋半の蒸氣鐵道敷設の計畫である

京春電氣鐵道は山科禮藏外十五人の發起に係り資本金六百萬圓の株式會社を設立し鐵道の外電燈電力、土地經營及倉庫事業其の他を兼營せむこするものであつて京城府外清涼里より加平を經て春川に達する延長五十哩、軌間三呎六吋の電氣鐵道である以上二鐵道も免許後日尚淺く未だ會社成立の運に至らない

圖們輕便鐵道延長線は南滿洲太興合名會社の企畫に係るのであつて同會社に於て既に會寧上三峰間二十四哩の運輸を開始したが更に上三峰より鍾城を經て潼關鎭に至る十哩の敷設を計畫して居る、

朝鮮森林鐵道延長線は朝鮮森林鐵道株式會社の企畫に係り曩に敷設を免許せられたる咸興、[illegible]州古邑間五老里より分岐の漢岱里に達する延長六十餘哩の軌間二呎六吋の蒸氣鐵道である

以上は九年中に敷設免許を爲したる各鐵道であるが此の外出願中の二三の重要なる鐵道があつて目下詮議中に屬する次に各私設鐵道會社事業の進捗程度を見るに其の多くは大正八年中に於て新に計畫せられたるものであつて未だ創業の際に當り殊に昨年經濟界の動搖甚しき時に會ひ資金の拂込難等に依つて事業の進行捗々しくなかつたが會社の大部分は測量時期を進つて居つたので其の第一回拂込金に依りて豫定線路の實測を行ひ一部工事施行の準備中である

朝鮮中央鐵道は其の未成線なる佛國寺蔚山間蔚山東萊及長生浦間及公州忠州間に付何れも工事施行の認可を受け既に佛國寺蔚山間十八哩及鳥致院清州間十四哩の工事に着手し何れも八分通りの竣工を遂げ兩線とも本年中に開通せしむべく努力中である同社にては既設の全線に亘り從來の二十封度軌條を三十封度軌條に敷設換の計畫を實行し既に大邱永川間二十哩は昨年六月中に完成し漸次進捗して大正十一年六月迄に全部の敷換を終了する見込であるが此の外更に十七噸機關車三輛を購入使用する筈であつて之等計畫完成の上は頗る改善の見るべきものがあるであらう

西鮮殖產鐵道は大正九年四月三菱製鐵株式會社所屬の黃海道載寧郡銀山面所在軌間二呎六吋の蒸氣鐵道九哩を買收し一面沙里院載寧間十四哩の線路の工事に着手し極力其の進捗を計りたる結果首尾よく十二月二十一日より開通せしむるに至つた其の他

南朝鮮鐵道朝鮮森林鐵道金剛山電氣鐵道及京南鐵道等は何れも豫定線路一部の實測を終へ中には既に一部の工事に着手したものあり又近く工事に着手せむこせるものある狀態であるが各鐵道とも本年に於ては何れも一部區間の實測を終へて起工に至る筈である

補助增額

次に鐵道會社に對する補助は大正九年に於て前年に引續き拂込資本に對し年八朱の補給を與へ各社に對して其の命令を爲したが今や補給を爲しつゝある會社十會社に及び資本の總額一億四百七十二萬圓を算し拂込借入社債の總額二千五百萬圓に達する補助の狀況であつて之に對する補助額は九年度豫算に於ては百十八萬餘圓に上り十年度に於ては各社事業進捗の上より增額を要し百五十餘萬圓を要求中である尚從來大體の補助方針は定つて居るが法規の制定なきは遺憾であるから今期議會には朝鮮私設鐵道補助法案を提出して是非其の協賛を經て法規の根據を得たいこ思つて居る次に

私設鐵道及軌道に關する法規こ

しては從來朝鮮輕便鐵道令を存したが同令は規定簡に過ぎ從來運用上不便を感じて居たが近時幾多の鐵道會社設立せられ殊に之等私設鐵道は孰も其の規模大で有て延長も長く軌間も四呎八吋半の標準軌間を採用するもの多い狀態で有て一層之が改正の必要に迫られたので大正九年制令第八號を以て私設鐵道令を公布し又從來私設鐵道及軌道の營業に關しては鐵道營業法の一部を除外して之を適用せしも近時鐵道交通の進展に伴ひ之が適用を擴張するの必要があるので私設鐵道に對しては同法の全部を適用し軌道に對しても其の範圍を擴張する爲大正九年制令第九號に依り明治四十五年制令第二十四號を改正し私設鐵道令及同施行規則、朝鮮專用鐵道規程私設鐵道建設規程、私設鐵道運輸信號保安規程、私設鐵道係員職制こ共に大正九年十一月十日より之を施行するに至つた又鐵道及軌道の抵當に關しては從來朝鮮鐵道抵當令に依り之を認めたが右は擔保附社債信託法こ相俟ちて其の効果を發揮することを得るものであるから大正九年勅令第五百三十三號を以て十一月十二日より同法を朝鮮に施行することゝ爲し之に伴ひ鐵道及軌道抵當取次規則を改正し鐵道會社資金融通上頗る便宜を增進するに至つた尚本年中には上記補助法の制定を圖るこ同時に之が附屬法規の發布を爲し其の他私設鐵道會計規程を制定し又國有私設兩鐵道に適用せらる法規としては運輸規程の改正を行ひ新春匆々之が實施を圖りたいこ思つて居る次第である

中橋文部大臣試筆

酉の傳說

（承前）　陽樓山人

鷄の起源

雞は本朝食鑑別錄に依れば、朝鮮平澤に生ずとあるが、現今では印度の野鷄に出る說が有力である。更に角之を家禽として飼育され始めて、既に數千年を經る。三千年の昔には、支那、ペルシャ、中央亞細亞、エジプト、希臘等に傳はり、日本には神代から、その名前が見ゑて居る。即ち東雅に依れば、日の神、天の磐屋戸にさしこもり給ふた時、思兼の神が、常世長鳴の鳥を集めて鳴かし、その常世長鳴の鳥を、鷄の鳥こ呼び慣らして、遂にニハトリこなつたこある。一に木綿付鳥など、云ふも、此の故事に因つて居る。然しニハトリの字義に就ては、なほ諸種の異說を立て、倭訓栞には、庭鳥の義で、人家に住み慣れた鳥であるこ主張し、嬉遊笑覽等も、同說である。一名カケとも稱して、萬葉集の歌にも詠み込んであるが、カケは東國の方言である。一說には家鷄の義であるとも云ふが、仙覺抄に、カクとは啼き聲に因つて云ふとあるに、賛成したい。古歌にカケロと鳴くなど詠めるは即ち此の類である。

鷄の靈禽說

船越男爵試筆

鷄は古から、靈禽として尊重されて居る、即ち五行に配すれば、本來木に屬するけれども、色に依つて性に異にし、黃色の雌鷄は土に屬し、坤象こして、脾胃を溫補し、烏骨鷄は、水木の氣を受け、肝腎血分の病及び虛熱者に宜しく、白色の雄鷄は、庚金太白の象を得て、邪惡を辟けるこ傳へられ、古は正月の元旦、白雄鷄の頭を磔つて、門戶に祭り、邪惡退散の符こしたものである。蓋し雞は陽の精、雄は陽の體、頭は陽の會、東門は陽の方であるから、純陽を以て、純陰に勝つこ云ふ意味が、和漢三才圖繪に見ゆる。獨り雞の頭を祭るのみならず、之を門戶に懸いて、亦邪惡退散の符こした。拾遺記を見れば、堯の在位七十年にして、重明の鳥を獻じたものがあつた。鳥は貌が鷄に似て、鳴く聲が鳳の如く、能く猛獸を搏ち、妖災群惡の害を除くが、來る年には數回來り、來らざれば數年來らぬ。故に來らざる年に、國人が木を刻り、或は金を鑄て、此の鳥の型を造り、門戶の間に置いて、自然に魑魅魍魎を退服したこ云ふ故事に因り、後には刻木鑄金に代へて、鷄の畫を畫き之を門戶に揭げるに至つたのである。

鷄の五德三利

支那人は、鷄の五德を算へて、文武勇仁信があるこ數へて居る。頭に冠を戴くは文、足に距を捕つは武、敵が前にあれば敢て鬪ふは勇、食物を見て相呼ぶは仁、夜を守つて時を失はぬは信こ云ふのである。田饒が此の五德を擧けて、魯の哀公を諷へた故事は、韓詩外傳に有名であるが、それよりも罪がないのは、野人の曰くである『賢者共の鎮へる樣な、五德があるか怎うかは知らぬが、吾々共が養鷄するのは三利があるからの事だ。山中田家には、風雨の日には時が分からぬ、鷄は時を報げる。庭內に穀粒がこぼれゝば、土砂に混つて拾へない。鷄は之を啄む。鷄を多く畜へば、また多く卵を生む、これを町に賣りに行けば、不時の小遣錢が儲かる。これが鷄の三利ぢやないか』こ

鷄吉凶を告ぐ

又、鷄は吉凶を告げるこ傳へて時珍等には、南人が吉凶を卜するに、鷄卵で黑を畫いて、煮熟した上、黃身を檢め、黃なれば吉、黃ならざれば凶こすることや、或は鷄骨を以て、年を占ふことを載せて居るが、最も通俗に行はれるは、鷄の嗜き聲である。和漢三才圖繪には、その鳴くや、雌鷄先づ雄鷄の翅を啄み、其の時を知らしめて雄鷄則ち聲を發する、これ陰陽相伴の義である。丑の時始めて鳴くは一番鳥、寅の時鳴くは二番鳥こ稱し、世人之を賞するが、丑以前に鳴くは不祥こし、俗に宵鳴きこ謂ひ、荒鷄、盜鷄の類であるこ載せ、本朝食鑑には、雄鷄の夜鳴くは、荒鷄こ云ひ、不祥を主り、黃昏獨り鳴くは、天恩あるを主り、之を盜啼こ謂ひ、老鷄人語を能くするもの、牝鷄雄鳴するもの、雄鷄卵を生むものは、並に之を殺すのみこ載せて居る。雌鷄が晨を告げるを嫌ふは、夫婦に例へて、婦人が夫の政を奪ひて、家事を紊すの象こし、雄鷄が卵を生み、雌鷄が宵鳴きするを忌むは、共に常軌を逸する象としてゞあるが、老鷄の人語を能くするは、不思議よりも、吉祥の故事がある。世說新語や、蒙求等には、晉の兗州の刺史に、沛國の人にて、宗處宗こ云ふ人があつて、一羽の長鳴鷄を買つて、窓際に籠を吊るし愛育して居る內に、遂に人語を作すやうになり、終日、宗こ談論して、宗の功業を助けたこ云ふ、奇妙な傳記を載せて居るから、强ち人語を作す故に、不祥こ云ふ譯もなかう。その他古風土記逸文には、震動の時、鷄雉悚慄し、乃ち鳴いて嶺谷を踰ね羽を樹にして躊躇すこあつて、雷や地震を前知するこ云つて居る。

懸賞情歌

編輯局選

嫁も二三度無理やり入れて好きな姑の讀み上手　木村巴果

雪の積むほご心も僻けて更けてうれしい歌留多會　瓜重盲羅

戀と云ふ字のある札いやよあからさまにはされぬ札　葉瑠子

白い指でしつかと押へ『亂れそめにしわが心』　一葉瑠子

年の始めに春夏秋の花の加留多え弄ぶ　對島渓華

思ひ詫びつゝ涙でくれる何處で取るやら歌かるた　孤帆

勝つも負けるもそりや運まかせ負けてよろこぶ歌留多會　湖畑明郷

或る夜かるたの味方となつて緣が戀路の手引草　さもに

火花散らした歌留多のうらみこけてうれしい結ぶ緣　花心

今宵來よこのかるたの便り人に云はれぬ意味がある　上田乾甫

歌留多こる手にそこ手が觸れて亂れそめにしわが心　安野彩巖

知らぬ顏してすましてゐてもいつが脈に入る歌留多　唐渡千賀交

樣に歌留多を勝せて留いてわしの願を聞かせ度い　柴月

私の心を歌留多に云はせ主にさらせる戀の札　翔子

名殘つきない歌留多を止めて別れ話に鷄が鳴く　大石劍牛

負けちや口悔しい勝てばすまぬしな向ふに歌がるた　南山子

戀の歌留多を取る手が隔み若い娘の血もなごる　高野竹灯

更けた歌留多に嬉しい首尾も晴れて添ふ日を松の內　岡本鳥石

文で合はした歌留多の會も來れば差かし胸の中　永山鈴丸

人にや勝さも樣には敗けて實意見せたい歌留多會　植松嗣塘

かるた會への歸りがちよいこ乙にからんだ二人仲　鈴木兎空

花も差らふて女子揃ひ歌留多取る手の蝶こ飛ぶ　麻田夢花

燃ゆる思ひをかるたに込めて君の來るのを松の內　村田晩峰

勝つも取るも戰さの慣ひわたしやあの娘の顏を見る　吉山登一

辛ちや爭つた君には勝てず敗けりや味方の恥こなる　寒扇子

歌留多取る手が只さへ憎ふ今は是非ない敵味方　悟浪人

握る手こ手が觸つてぬくい歌留多隣りの最合傘　高岡可數

物や思ふこ人問ふ仲になりてかるたの歌文句　ニコ／＼坊

歌の心を讀み合ふ仲も札のめくりに敵味方　門脇紫浪

かるたこる手に振袖からむ吹きも閉ぢよこ新る風　守永妙子

負けてかるたの定めの居酷に島田さゆらぐ袖の風　清水芳月

ちよいこお手付違したる札に恥かしいやら下を向く　牛草曉水

人に知られて取られし戀は人知れず又ころ歌留多　村上雪女

歌留多取る手の白魚よりもひびのそなたの手が嬉し　松木まさし

それこ云はれず本意なく拔いて燃ゆる思ひを送り札　逃金五曉

まけない歌留多を氣にしながらも主に蜜のはつれた歌留多會　松本莽浦

覺話かけたを知らずにゐてか歌留多戾りこ云ふ猶さ　昇坊

あの娘よう取ろまだ振分けの戀に心のない歌留多　東海

歸しこもない一座の花に早く迎の來ろ歌留多　靜雪

配る歌留多の札にもかけて親に解せろ謎もある　靜雪

銀杏島田に溶け合ふ灯映ゆる笑顏の歌留多會　茶舟

募集漢詩

課題『新年寄友』　高野竹隱選

新年寄友　金始黨
冬至陽生春又來。君家知有屠蘇醑。將舒岸柳放寒梅。美味爲予分一盃。

許道成
上日題詩寄故人。一陽可見半々理。僅過冬至又逢春。和氣偏同物々仁。舊誼既荷平日厚。佳辰倍切相思意。遐祇更祝此年新。獨上高樓眺望頻。

大谷稔
氤氳淑氣滿坤乾。嶽雪玲瓏初日妍。鼓腹堯民謠聖世。年々嘉節太平年。

宇高重太郎
萬里奉公過七年。敎見重任在双肩。功名未立光陰去。埋骨不辭平北邊。

韓相烈
千門松竹一時新。天下同迎雪裏春。痛飲屠蘇能復飲。兀然坐我太平人。

江口冷洞
僑居也拜我王正。株守十年遊子情。百二都城春色早。高堂遙羨捧金觥。
千里離居徒悃然。預將詩債入新年。雙柑斗酒鶯塲聽。春信早從江左傳。

李露雞
內兄鮮弟漸和親。歲歲文明又歲新。此日兆民那不樂。一樽共酹太平春。

鄭鳳奎
新年回憶去年今。草々光陰感不禁。草木雖甦愛世病。江湖自慰散人心。相思昨夜應看月。有意明朝更抱琴。春酒吾家仍獨酌。擧盃相望舊情深。

米倉碧煙
歸林故雁十餘回。歲々松筠慰感來。何日與君傾柏酒。陶然同訪故山梅。

賀正
土木建築　永田乙吉
京城府元町二丁目　電話三四七番

賀正
仐組支店
京城府漢江通一一　電話一五七番

恭賀新年
平壤府大和町　片倉組營業部　電話長一四五番
平壤府大和町　平南自動車商會　電話長六〇六番
平壤府濱町　平壤製材所　電話長八五八番

賀正
町田新聞店
京城本町二丁目　電話一七〇番　電話九二二番
支店　龍山　仁川　電話四五番

賀正
朝鮮蠶絲株式會社
京城府大島町一番地　電話五五番　一五五番

賀正
滿鐵商事部販賣課
京城出張所　電話長一七七〇　三一九七八　三一三二
龍山町炭場　電話二〇三

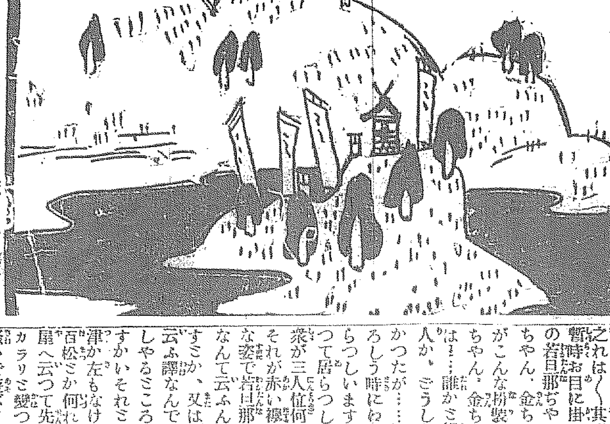
賀正
齋藤又吉商店
京城南大門通五丁目　電話三一七番　三一六番　二八一〇番

賀正
朝鮮窯業株式會社
京城窯業株式會社
京釜線永登浦　電話二七番
本社　京城明治町一ノ五四　電話九三七番
工場　京釜線永登浦　電話五番

新落語 素人車

三遊亭圓遊口演

さて道樂とは道を樂むとか書きますさうで、之がお仕舞ひには道に陷るやうになつては、もう駄目ですが、殿方の第一のお道樂といふと、御婦人を愛しますのが第一番、御婦人のお道樂はといふとお芝居でげすな、女の好きなは芝居蒟蒻南瓜と申しまして、成程御婦人はお芝居が好きなものと考へますので殿方の一つのお道樂が御婦人でございまするが、其こで一番手つ取早いのがお女郎買、併しアレもお道樂が過ぎますると終にはお宅の方を失策ましてお出入の職人衆か、何かの所へ食客となりますが、之がまた隨打がございませんな『ネー若旦那、貴方『ア毎日々々斯うして二階へ上つては果然と考へて居なさるがそんな事ではお父さんにお詫の仕樣がありません、何かアレをして見やうとか之をやつて見やうとか云ふ考へは付かんものですか『イヤ度々君の御意見を受けて居るが、どうも當今は却々通常の事では金といふものは儲からぬもので僕も種々と腦を痛めて居るんですがサテ商法をするには資本金もなし、官へ勤めるには學問もなし之では誠に仕方なし……『何を與迦を云つて居なさる』ところで此の間も、一寸君に話をしたんだが、今日から車を挽いて見やうといふ僕の考へだ『エッアノ俥を挽くんですつてアリャ骨が折れるものですが、どういふ譯でアンナ事を行つて見やうといふ氣になつたんですかね『それには種々仔細があるんだが、羽左衛門といふ役者がいつぞや俥屋をした事がある『成る程ね『奴が俥屋の姿で車を引つ張つてズット花道から出て來たと考へなさい、年齡なら二十五六といふ別嬪だ、女中を一人連れて居たが、淸や御覽ね本當にまア羽左衛門といふ役者は好きな役者だ此の物をやつても立派ならまた斯ういふ二番狂言も善い妾は何だか斯ういふ俥屋があつたら聟子に貰ひたいね、といふ言葉をチラッと聞いたので、それで之は俥屋になるべしと思つたので『巫山戯ちや可かんね『僕が俥を挽いて出掛けませう、妾が一寸羽左衛門に似て居るから『何を云つてゐるといふ柄ぢやない『イエ、何うしても僕は羽左衛門といふ柄だね、僕が保證する、スルといふと其婦人が必ず惚れる確かに惚れる『斷るには及ばんよ、何とも云つてやしませんよ『直に先方へ聟子に行きませう、財産が少くも五十萬圓そつくり之が私の所有になる、その中御禮として洗濯石鹼の三ッも買つて上げやうか『巫山戯ちや可けないぜ何十萬兩といふ嚊にも財産家にでもならうといふ人がお禮をするに洗濯石鹼が三つとは何たる吝嗇な話だ『宜しい君がさう云ふなれば、僕もウント奮發をして千五百兩君に進呈しやう、一商法出來るね、一箱半だ、ナニ構はん持つておいで遠慮をしないで『何を云つてゐるのだ、何處にあるのだい、千五百兩は』『ア、サウかいまだ無かつたねどうだらう其處を千五百圓貰つたと思つて今十五錢お貸れ』『何を云ふんだい、與迦な……ところでお前さん俥を挽くと云つたつて仕度をしなくちや可けないね『御心配は有難いがそんな事に腦の働かん僕ぢやない、チャンともう仕度さしてある、向ふを見給へ、アノ空家の軒下に臘の艶消しで上等二人乘りの俥があるだらう『成る程ある』『アリャ僕の車なんだ『ヘエ何かへアレが借りてある『それに此通りだ見給へ黑の筒袖股引腹掛ホー大したものだ『成る程どうも襟の下から腹掛けが見ゐると思つたら、仕度が出來て居つたのか『ソリャ早かつたね、でも幾らか稽古をしなくちや可けませんよ『稽古はしてある、此の間朋友を二人乘つけて番町から九段へ掛けつた平坦な處は挽けるけれども坂へ來ると、どうも素人は不可んね車が留まりませんよ、ズウーと早くなつた、仕方がないから坂の途中で怒鳴つた、助けて呉れつてな『厄介な車屋があつたものだね、それからどうしたい『スルと好い具合に憲兵さんが二人來て、梶棒を抑へてどうしたのだと聞くから坂へ掛りましたが俥が留りません危いから聲が出ましたといふそんならお客を下せつてんだ『有難うございますモウ大丈夫でございますサウかでは手を放すぞ宜しうございますといふと憲兵さんが手を放す途端に又ズウット早くなつた之は大變と思つて曲らうと思ふ同時に、組橋の交番で巡査を五六枚も轢したので、巡査さんに叱られて罰金を取られたがね『云はねい事はない、駄目だらう、まア、四五日も稽古をしな『イエ、もう充分なんで今日はこれから出掛けます、それぢや行つて來ますよ『何處へ行くのだねさうですね先づ萬世橋か淺草橋アノ兩所かと僕は考へますね、どうか濟みませんがお晝のお辨當は成るだけ旨いものを拵らへて彼處へ持つて來てお呉んなさい『何を云つてるんだい、お腹が空いたら、途中で勝手な物をお上りなさい、車屋に辨當を運ぶ奴があるものか『さうですか『子供なんか危いから粗忽のないやうに遣んなさい『エー大丈夫だ『近車の運轉手や車挽が先づ一人前になるには子供の三人位は轢かに挽き殺すといふからね『英な事を云つちや可けないよ、氣を付けて行つてらつしやい『アイヨ』到頭旦那は飛出したのですが『どうだい、到頭主人は臨落してからうして體を持つて出るには出たが……併し車夫といふものは愉快なものだねこの俥が一臺あれば家業が出來るなどは有難いね、ハッハ、ハヨーどうだい俺が斯うやつて居る中に、いつかの芝居で見た婦人が來たら此方のものだね……淸や御覽よアノ車夫はこの間羽左衛門が演つた車夫ぢやないかしら、能く似てるぢやないか、あんなのを妾のお婿さんに欲しいわお前アノ人の所を聞いてお見れな、旨いな……オヤ邪舌て居る中に來て仕舞つたこゝいらへ梶棒を据ゑやうかなこれから上等のお客樣を勸めるといふ趣向だが…へイ旦那樣御前上等の歸り車合第二人乘りは如何さまで……』『オイッお前は車夫かウーン巡査に車を勸めるといふ事があるかい『オヤ〳〵お巡査さんか成程洋劍が下つてゐたんだが……モシ〳〵如何です、御都合でお安く願へませんか『オイッ何を云つてるんだい俺ら車を挽いてるんだ『さうか成程お仲間か實はあんまり貴方が、方々ギヨロリ〳〵見て居るから車でも搜して居るのかと思つたどうです大將お頭髮が伸びましたね、モウ徐々刈込むんでも宜しいでございませう『何を餘計な事を云ふないよそれにどうも大層汚い股引で……『大きにお世話だい』ヘッ左樣ですかい、どうもお客が無くて困るね……アモシ〳〵其所に立つて居るお方、黑い洋服のお方如何でございませう、お安く參りますが『僕かね僕は茲處で君電車の見張をして居るのだ『ア、成程電車の監督さんか、コリャ不可ねいやオウ來た〳〵、向ふから多勢揃つてやつて來たぞアノ中一人位は乘りさうなものだが、コリャ不可ねい兵隊の調練だオヤッ今度は二人連れだ、ア、云ふ連中が來なくッちや錢は儲からない……お二人さま、お安く參りませう御前上等の歸り車、合乘二人乘り如何で御座いませう『オイ、大將ッお出で……どうだい向ふで若い男が勸めて居るこゝが面白い白いぜ御前上等の歸り車といふのは始めてだアノ俥へ乘りませう『御免を蒙りませう何故だい『何故だつて私はお前さんと車へ乘ると碌な事はありやしないこの間だつてさうだ何かの調子で顚覆かへされて横ッ面を石で擦りむいて醫者に二週間掛つたぜ『アリャ仕方がないよ、素人の車へ乘つたのが悪いのだもの『加之第一お前さん値段が馬鹿に安かつた『安くないぜお前さん。赤坂の溜池から麻布の一本松へ行つたら、アノ時から割合を幾干取つたと思つて居る』『忘れて仕舞つた『忘れて仕舞つたつて何しろあれだけで卅八錢五厘取つたぜ『サウ〳〵アノ時は、實は俺は八錢五厘儲かつた『お前さんは卅ずにかへ『さうよ『非道い奴がある『イヤソリャ僕が悪いアリャ僕が悪いから今日の會計は僕が賄ふから心配をしないでお乘り『……おい車屋さん車を持つてお出で』『へい有難うございまする何方までお出でになります『淺草の雷門まで行かうと云ふんだが知つての通り電車が滿員だからデ一つお前の車に乘つてこの人と話をしながら行かうといふんだ、どうだい幾干で行くんだ』『これだけでは如何です』成る程な片つ方の手を出したと。つまり五といふ譯だと『左樣ですな五百圓、五千圓、五萬圓、五十萬圓、五百萬圓と種々ございまするがその中のどれを頂戴いたしませう『オイだからおよしと云ふのだ云はねい事ぢやねいこの車屋は氣違ひだぜ『巫山戯ちやいかねい發狂人は眼の配りやうが違ふ……オイ車屋、馬鹿な事を云つちやいかない、一人前五錢宛やらう二人で十錢で行くかい『成る程つ宜いところを仰しやつた一名五錢の御兩名で十錢手前の方の都合では五錢の事を擧固、擧固が二つで〆て十錢開業式だいテンセンス宜ろしい乘りたまへ貧つた『オイ〳〵御免を蒙らう車屋ッ脅かしては不可ないぜ加之に變な事を云つたぜ開業式だいテンセンスなんて如何に十錢でも車屋の開業式などは不可ないよね『彌次喜多で好いぢやないか『そんなことを云ひ給ふなモウ値が極まつたのだ今更止せないぢやないか『困つたね『まア〳〵心配をせずに乘り給へな、ホーラ乘るよトツコイショ俺も抑へて居る落ちれば君一人落すんぢやない共に二人が落ちるんだ、落こちても生命には別條は無い何所か擦むくのが精々のところ……『不可ないよ『大丈夫だよ……乘かつたよ、サアお遣りッ『ハッどうも濟みませんが、チョッと足を張つて腰を引いて下さい『何だい、そりや『イヤ車屋の云ふ事は聞いてやんなさい足を張つて腰を引くと身體がダタリとして居るのが直る先方が挽き好からさう云ふんだ『ヂャまあ仰せに從つて足を張り腰を引くか『ハイ、どうも濟みませんが、かう肩を並べて顔を揃へて……』『何だいソノ肩を並べて顔を揃へるのは……『肩を並べて顔を揃へれば車へ乘つても格好が好いぢやないか外國人がさう云つて居るドウも日本人の車へ乘つた姿勢が悪いッてな事をね乾度之は車隊組織の車屋だね車人車ッ、能くあの日本の女が帶をかばつて屈んで乘つてるのは決して善くないからね……サア肩を並べて顔を揃へたよ『ヘイどうも有難うございます、それから濟みませんが双方見合つて……『何だいその双方見合つてなんていのは『此双方見合へッてのは双方忘れた事を思ひ出す、つまり退屈ないやうにさう云ふのだな『お前は辨解ばかりして居るがチット文句を拔にして遣つて欲しいね『サア車屋、チャンと用意は整つたよ『デは行きますよ、宜うございますか、ハツヨウッ『何だい掛け聲ばかりで梶棒が動かないぢやないか』オイ〳〵何うしたんだい梶棒は『へィこれから動きますが、さう短兵急には行けませんよ、ソリャ來たソリャ上つた『オイ〳〵馬鹿に梶棒を上げて仕舞つたね先方が見ねないよ『左樣ですな、小々上り過ぎましたかな『モッ、梶棒を下げないか『私も下げたいと思ふんですが斯う上がりました上は仕方がありません、けども又一心不亂に力を罩めれば一旦上がつたものは下らないといふそんな不都合な事はありますまいが……ウム、ショッ、ホーラ下つた、アイヨ、御苦よハッハッ『どうです好い心持でございませう『少しも好い心持ぢやない、丸で地震だね、地震も地震大地震だね馬鹿に搖れる車があるものですな『ウッコリャ運動になつて好いな新發明の運動車だね『何にが運動車なものか、巫山戯ちや可けない『へイチヨトお客樣向ふの方に乘つて居らつしやるお客さま扇子を持つて居らしやいますが、それで以て濟みませんが後からチヨット煽いで戴きたいものですな『オイ〳〵扇子で煽いで呉れといふ心細い話しだ、車へ乘つて居る者が車屋を後から煽くなんてィのは餘りないからね、アノ人達は大方車屋に借があるのだから『ア〳〵してお世辭を使つて居るのだらうなんて、變になつて仕舞ふオツ車屋さん風に向つてブウ〳〵唸きをしては可ないね皆こつちへ刎ねて仕舞ふぜ『どうも濟みませんモシお客樣『何だいそんなに泣聲なんど出しては外聞が悪いぢやないか、どうかしたのかへ『ヘイ目へ汗が入りまして向ふが少しも分りませんがどうか電車が來ましたら除けて下さい『巫山戯ちや不可ないよ、私共は車へ乘つて居るんだ、挽いてるのはお前だぜ……オイ〳〵電車が二台揃つて來たぜ『右へ除けますか左へ除けまするか『左だッ左だッ『オッ之れは〳〵其處へ入らしやるは暫時お目に掛りませんが近江屋の若旦那ぢやございませんか坊ちやん、金ちやん『ア誰だい俺がこんな扮裝をして居る中で坊ちやん、金ちやんなんて云ふのは……誰かと思つたら幇間の一八か。どうしたい暫らく逢はなかつたが……『どうも御機嫌よろしう時にわらい事を行つて居らつしいますね、貴方がさうやつて居らつしやると馴染の藝者衆が三人位何處かに忍んで居てそれが赤い襷の襷はしをつていな姿で若旦那ア後を押しますぜなんて云ふんで女の子が後を押すとか、又は綱を引つ張るとか云ふ譯なんでから貫つ直に行らしやるところが見ると常體でげすかいそれとも一直か萬梅か草津か左もなければ橋を渡つた八百松とか何れにしても善いお茶屋へ云つて先方へ行けば車屋がカラリと變つて若旦那お陽氣に騒いで遊ぶと云ふ貴方の狂言なんでせう『どういたしまして却々そんな譯ぢやないだよ、實はの暫らくあそこに芝居で見染めた婦人がある、それをどうかこへ乘せたいと思つて淺草橋の際に居るんだよスルト怪しなお怪しなナチヨコ野郎が乘りやがつて……『お怪しなヘナチヨコ野郎とは心細いな『どうもこれだから嫌になつて仕舞ふ『ヘエ、デはお前さん、本當の車屋になつたといふ譯なんで婦人を乘つけたいと思つたところを男子に乘られたんで、困つて居ると仰しやるんですか……ウン宜しい斯う云ふ時に御恩返しをしなければ可けないものだからウッと何處へ車を預けて吉原へ遊びに入らつしやいよ、吉原の女が貴方に逢いたい入費は自分で持つから連れて來て呉れとかう云ふんだ車を置いて入らつしやい『さうかたね狂人が二人になつたぜ『困つたな『若旦那、私が後から押しませう構はず行らつしやい、宜しうございますか押しますよ『オイ〳〵後を押すのは好いけれども頭を押してはいけないね……どうも困つたね、押し手が殞ゑたので何んだかお辭儀ばかりして居るぜ『好いぢやないかお辭儀をしたつて……向ふから來る人に萬遍なくお辭儀をするのだからお辭儀をすれば恐悦至と云つて好い位のものだ『巫山戯ちや可けないね、歩く方が餘つ程樂だ……オイ後を押す人その頭をコツン〳〵押すのは止めて呉れ『ヘイ實は私も梶を押さうと思つて居りまするがそこが素人の悲しさで眼が暗んで終手が頭の方へ行つて仕舞ふてもう斯うなると何處を押すか知やしませんよ『到つたなコリャ『さア〳〵前の方を退いた、前の方を退いて退れ『危ないよ、御氣よ到當電車が車鷄や入口へ入つて仕舞ました店の中では『入らつしやいませお上がんなさい』『オヤ〳〵わらい處へ挽き込んで仕舞やがつたぜ……何故こんな所へ挽き込んで來たんだ、これから一體どうするんだ』何が下さい序にしやもが二人前おが一本、御飯が一人前……』何何だか薩張分りませんが、ガッチャンと挽込んで見ると軍鷄屋でございますから、まア御勘辨をコレ畜生『巫山戯なことを云ふな愚痴ッ『さうお怒でないよ仕方がないぢやないか、どうも見るところがこの俥屋は道樂の結果に違ひないが今の羽織る着た後押しの奴は何處かへ逃げて仕舞やがつた、どうだい歸る譯にも行かないから、かうして挽込んだものだから飯でも食つて行かうぢやないか『今食つて來たばかりぢやないかね『デモ軍鷄は普通の料理とはまだ違ふから、食つて行かうさ……姉さん上肉で一本つけてお呉んな『仕まりました『仕方が無いや車屋にも肉と飯だけでも繕つてやらうぢやないか……姉さん車屋にも飯を食はしてやつてお呉れな『驚いたねどうも大將、お前が乘らう〳〵と云から乘つたけれども一體この態は何だへ『仕方がないよ、お前と俺とは乾度前世にても車屋か何にか殺した事があるんだよ『呆れ返つたね、ほんとうに俺モウ腰が痛くつて仕樣がない、電車は矢張揺れるし、ゴム輪の上等な車で歸るよ『アノ何でございまするか、貴下方は又車でお歸り、左樣なら矢張手前の車で……『冗談云ふな、お前の車で今度行くと生命がない『ヘイお話の通りでございます、私も此上行きますと生命が難かしうございますので……『テは姉さん、スッカリ手前が出て仕舞つたら氣の利いた俥をさう云つてお呉れな『ハイ畏まりました『アノ姉さん車は三臺頼むよ、奇麗なのをね『オイ何を云ふのだいお客は二人だぜ『御心配なさいますな一臺は私が乘つて歸ります』



山西合名會社 穀物、乾物、食料品、煙草、鹽、雜貨 釜山大廳町

岡村正雄 滿鐵京城管理局運輸課釜山在勤出張員 鐵道省囑託 鐵道局釜山營業所主任

釜山鎭 原田釀造場 電話一〇三八番 / 釜山南濱町一丁目 原田酒造支店 電話長一四二番

釜山府大倉町 材木商 問屋 正木義三郎商店 電略(マサキ)又ハ(マ)

內國通運株式會社 釜山支店 電話長九三七番 九〇四番

賀正

釜山大倉町 運送業 小野組合名會社

釜山稅關 松井房治郎 蘆田彌壽治 井村只二 吉田賢男

釜山辨天町 大池本店 地所部 旅館部

釜山埋立新町 同營業所 貿易部 回漕部 石炭部 倉庫部 陸送部

京城府旭町一丁目 土木建築請負 林喜太郎 電話九九二番

京城本町二丁目二八番地 各國麻苧綿糸ロープマニラ、シーデ組紐裝用玉糸、麻縄帳糸 森政吉商店 電話一八三〇番 振替京城一七五八番

京城本町三丁目十二番地 絹紬類吳服商 岩見寅次郎 電話二三三番 振替口座京城一〇五五番

朝鮮京城黃金町一丁目 北海道材、間物材、家具用材、床廻用材、ロクロ挽物、並家具木取、椅子、卓子 本明雜木店 長電話三一七五番 振替京城五七三番 電信略語(ホ)又ハ(ホン)

總督府御用表具師 並ニ材料販賣 石川辰次郎 京城本町三丁目一番地 電話一一八七番

京城本町二丁目 日ノ丸小間物店 長電話一九二〇番 振替京城二九四三番

三矢酢釀造株式會社 營業所 京城本町四丁目 電話長二二六〇番 振替七二六六番 電略(ミ)又ハミツヤ

革鞄、ズーク鞄、旅行李、バスケット類、支那鞄並に袋物 但馬屋 店主 北村淸十郎 京城本町三丁目九七 長電話二四八二番

大田春日町 白石鐵二郎 電話長二〇六番

建築請負 和洋家具類 建具製造販賣 大原松次郎 南大門通五丁目一五 電話二一二九番 振替口座京城七三三番

赤かべ 平壤旭町 電話三二八番

朝日工產株式會社 仁川花町 電話九二番

咸興 旅館組合

咸興 藤田新作

倭館 穀物商組合

穀物賣買組合

大田電氣株式會社 電話長四二番

鳥致院營業所 電話四八番

大田本町二丁目 大田鐵道病院 電話長四九番 院長 佐藤惣太郎 笹岡恭平 安西禎一郎 佐藤惣五郎

京城女髮結業 組合員一同

大田郡廳 茶谷榮治郎 豐田重一 中嶋鹿一

大田春日町 和洋御料理 富士家 長電話五七番

瀧川銃砲自轉車商店主 瀧川靜江 本店 京城明治町一丁目 電話三〇二番 振替口座京城六三八番 支店 大田春日町二丁目 公州本町二丁目

大邱 朝鮮生絲株式會社 片倉組製絲工場 組製絲工場

忠淸北道廳 張憲植 尙灝 渡邊忍 小松淺五郎 新田瞬平 大島良士 鈴木貢 崔志煥 池田正人 岡崎進 立野新五郎 曾田篤市郎 鎌倉小一 幾世橋幸助

淸州本町三丁目 生蕎麥御料理 桃葉 電話一一〇番

淸州本町二丁目 株式會社朝鮮實業銀行淸州支店

淸州官煙組合(イロハ順) 高野久藏 山本音太郎 江上小太郎

淸州旭町 御料理 銀杏 電話一〇一番

謹賀新年

釜山府辨天町 洋服マント既製品 惠美屋支店 電話五四番

釜山府辨天町 三中井呉服店 電話七五番

釜山府南濱町一丁目 海産物貿易商 淺海商店 電話八四六

釜山府琴平町 弘中電氣商會 電話九三九番

釜山府南濱町一丁目 河野船具店 電話五一六番

釜山府 本田常吉 寺島利久

釜山埋立新町 貿易商 株式會社 協信洋行出張所 電話六三一

釜山府富平町一丁目 丸金酒造株式會社 電話五一〇番

釜山府佐藤町 米穀雜穀 海産物商 山本利吉 電話長一九一番

釜山府辨天町二丁目 糸物卸商 嶋田商店 電話五七八番

釜山府本町三丁目 中村虎三

釜山府埋立新町一四 時計及貴金屬 製作卸商 戎商會 釜山支店 電話一一〇一番

綿糸布商 釜山本町 ㊣高瀬合名會社 支店（本店 京城 平壤 群山 麗水）

營業品目
穀粉、洋酒、食料品
北鮮品、諸雜貨、雜穀
肥料、油類、セメント
酒類、醬油、飲料水
代理店
大正生命保險會社
東洋海上火災保險會社
福壽火災保險會社

釜山埋立新町十一番地 福榮商會卸部 電話二八一番 六八番 九九四
釜山辨天町三丁目三一番地 船米 雜貨 福榮商會小賣部 電話三六番 一二三番
大邱本町壹丁目 福榮商會大邱支店 電話六四九番

大日本麥酒釜山販賣組合

合資會社 鈴木商店 釜山出張所

サクラ麥酒 釜山販賣組合

釜山本町 綿布雜貨商 村上幾藏商店
京城南大門通二丁目 綿布雜貨商 村上商店 京城出張員

營業科目
石油 輕油 揮發油 機械油 ハイト油 植物性油 蠟燭 製紙用油 製靴用油 空罐 …
同蠟燭工場 釜山富平町四丁目 電話一二五番
ライシングサン石油株式會社 日本石油株式會社 特約店 立石良雄商店 釜山埋立新町 電話四三九番 振替京城五八五番

謹賀新年
舊年中は格別の御懇情を蒙り難有尚本
年も不相變今般、停車場に新築一月中に
移轉仕候條倍舊御引立の程伏て奉願上候
敬具
釜山 荒井旅館 電話七〇〇番
東萊溫泉 荒井支店 電話八番

お目出度う 釜山南濱町 釜山券番

お目出度う 釜山南濱町 御料理 重乃屋

お目出度う 釜山南濱町 御料理 芳千閣

お目出度う 釜山琴平町 御料理 江戸屋 松島牛島 御料理 翠松園

釜山府高島町 釜山埋築會社 電話長一八一番

釜山府本町四丁目 米穀貿易商 福島合資會社 電話長九〇二番

釜山府南濱町一丁目 精米 製鹽商 海産物 林兼釜山出張所 電話一〇六四（本店） 牧之島 林兼 精米 製鹽 電話牧島二八番

釜山府牧之島 牧之島鑛泉場

銘酒 富久娘 白牡丹 特約店 鳳印醬油製造元 滿洲特産品販賣 釜山府大倉町 合名會社 湯川兄弟商會（驛前） 電話一八八番 振替京城二四〇八番

釜山府南濱町一丁目 海産物貿易商 山中芳太郎商店 電話七四六番

釜山府本町四丁目 田中善株式會社 釜山支店

釜山府牧之島 輸出食品株式會社 釜山出張所

釜山穀物信託株式會社

釜山辨天町 大池忠助

釜山大廳町四丁目 香椎源太郎

釜山草梁 釜山商工株式會社

釜山鎭 活牛移出 上杉古太郎

釜山大廳町一丁目 株式會社 明治屋 電話三四八番

鐵道省公認運送取扱人 稅關貨物通關取扱人 鐵道承認貨物取扱人 釜山驛前（高島町四番） 岩橋通關運送本店 振替口座 京城一八三二番 下關四八七番 電話 一〇六番 一二四番 五二番 六七番 支店及出張所 草梁、大邱、金泉、馬山、鎭海

釜山埋立新町 ㊝中俊精米部 ㊝中俊穀肥部 電話五七番

慶南東萊溫泉場 溫泉旅館 蓬萊館 電話東萊五番

大同生命保險株式會社代理店 釜山榮町三丁目 萬問屋 並に材木商 正木力松商店 電話三九九番 電略（マサ）又八（ヘ）

マツチ 二双羽 鹿鹿 王冠票 東洋燐寸株式會社 釜山出張店 電話二〇八番

菊正宗 兵庫縣灘御影町 釀造元 株式會社 本嘉納商店 釜山本町三丁目 發賣元 株式會社 本嘉納商店

釜山大倉町 釜山運輸合資會社 白垣善四郎

砂糖 麥粉 卸商 釜山府 內藤八藏商店 電話六九七番

內外雜貨卸商 釜山本町二丁目 近藤商店 電話七六八

釜山府本町二丁目 五島合名會社

內外雜貨卸商 釜山本町二丁目 近江屋商店 戸所他吉

釜山本町 貿易商 中馬合名會社 中馬嘉助

釜山府本町壹丁目 貿易商 合資會社 淡盛商會 電話長二一九番 電略タヌ八（〇タ）

東亞煙草株式會社 釜山販賣所 電話長三壹〇番

釜山 Ⓢ澤山兄弟商會 電話長七五〇番 八一六番 六〇八番

釜山高島町 大阪商船株式會社 釜山支店 電話長一四番 同八五一番 同七四番

釜山富平町 西條鐵工所 所主 西條利人 電話四壹貳番

釜山富平町三丁目 横江川鑛工所 電話六三三番

釜山大廳町三丁目 ㊇洗 山下洗布所 電話五一八番

釜山本町五丁目 土木建築請負業 木下元次郎 電話長六三七番

釜山郵便局前 蔚山自動車株式會社

釜山驛前 釜山自動車株式會社

釜山窯業株式會社

釜山 朝鮮瓦斯電氣株式會社

釜山水産株式會社

釜山大廳町四丁目 小林一郎

釜山 ホームリンガー商會 電話四七五番

釜山精米業組合

京釜線院洞 院洞蠟石株式會社

釜山府洲岬 田中造船所 電話九番

慶安太平記

第五十九席　小金井芦洲講演

諺に好きこそ物の上手なれと言ふやうに丹三郎は醫道は更に顧みないが武藝の方は可成りの上達、父の丹南が然う言ふ荒ッぽい事は止めて呉れろと幾ら意見をしても本人が好める途とて止まる筈がない、丁度一陽來復の春を迎へて今日は正月の元旦、丹三郎は本年二十一歳となりました、朝早く起き出で若水を汲んで例年の通り吉例の屠蘇雜煮を祝ひ、兩親の前に新年の慶賀を申納めた時に丹南が、父『扨て丹三郎』丹『ハイ』父『ナ一寸此處へ來なさい』丹『ハイお父さん何か改まつて御用で…』父『イヤ外ぢやないが今日は是れ一陽來復の正月元旦、年の初まり日の初まりで、凡ての物が改まる日ぢや、其處で今日改めて其方にも申聞かせ置かうと思ふ、外でもないが、どうもお前は物心を覺えてから醫者の家に生れたには不似合で、家道を棄て、武張つたことが好きだ、誠にどうも困つたもので、今まで意見をしたのも最う一度や三度ではないが、何うしても思ひ止まらない、既に今年今月今日からはお前は二十一歳、もう丁年を越したのだ、以來もう今日限り意見をしないが何うだ、只今までの武張つたことを罷て、眞實に醫道を勵む心持はないか、若し其方が心を改めて醫道を研究する心持がなければ據ろない、今日限り親子の緣を切つて勘當を申付けるから、當家を出て心の欲する儘何所へでも往つて身を立てるが好い　丹『ハ、ア、これはお父上又しても私の武藝の御意見、折角でございますけれども私は其御意見には從ふ譯にはなりませぬ、如何にも勘當承知いたしました　父『ナ何んだと…』丹『正に勘當承知致しました。へイ弓は袋に太刀は箱に納まるとは言へ、未だ半治半亂の今日人の脈などを取つて匙を持つ、長袖の身で生涯を朽ち果てるのは殘念でございます、武藝を以て身を立て、天晴れの者になりたいと言ふのが、私の望み、親子となつて親の言葉に從はぬと言ふ、これに越した不幸はございませぬけれども人は己の志す所に從はんければ身は立たぬものでございます、お父上の事だから醫者になれと被仰るのは一應は御道理ですが、私は醫者は嫌ひでございます、勘當結構有難く承知をいたしました　父『呆れた奴だな、勘當結構有難く承知をする奴が、何所に在る、　丹『イヤ仰せなれば據ろござらぬ、長らくの間御厚情を受けましたが、隨分ともに是から先は御自愛專一、私は青年お父上は是れから年をお拾ひになりますのですから時候をお厭ひ下さつて御健康の段陰ながらお祈り申上げます、身を立て道を行ひ以て父母を顯はすは孝の終りと言ふことは豫ての教訓で頭に沁みて居りますから、家こそ出ましても戸村丹三郎となつて世の中に出ました時は三千の罪を補つて、幾分の報恩を致す覺悟で居ります……甚之助一寸此處へ來なさい、拙者は今日正月の元日だといふのに改めて父上に勘當を申付かつた、仰せには背けぬからお暇をしたが、此上は其方家督を相續して兩親に對して能く孝行をしなさいよ、好いか、兄はかういふ不具のやうな者に生れたものだから其方は一心に醫道を勉強して天晴れの國手となり。兄と二人分の孝行をして呉れなければ不可ぬ、好いか、　甚『ハイ……』　丹『モシお母さまさて長らくの間御厄介を相掛けましてございます、お聞き及びの通りの始末でございますからお暇をいたします……』

懸賞俳句

內藤鳴雪選

新年雜咏

京城　野田初男
猿曳が毀へる門の日向かな　京城　有賀保記
睦まじや手を引あうて年賀人　釜山　水越可紆
門松や夜の街照らす瓦斯の色　釜山　山本みのる
小船から大船に積む初荷かな　汶山浦　橋詰楚石
星光る野も元日の朝ぼらけ　岐阜市　田中華麗軒
元朝や心は同じ民と民　平北　蕚扇子
大君よ父母よと初日仰ぎけり　京城　美作冬月
鶏の春鶏高く歌ひけり　晉州　錦倉久爲子
屠蘇の醉日本一の機嫌かな　木浦　新沼掉郎
鷄の佃もよきもの選ぶ睦月哉　慶南南海　戸田蘇牛
長々と橇曳き續く初荷かな　黃海　武田六二
かさくと粉雪散るなり松飾　黃州　藤原紫水
鶏鳴くや並松暗き初詣

與太吟

編輯局の誰彼へ…　壽夫

早田さんおめでたう!
テニスの前衞としては
動かざること泰山の如く、
眼中敢てコートなく
猛打、ボールの飛ぶに任す。
飄然として編輯局に現れ
金玉の文字成れば
夙忽として姿を消す。
飲めば醉ひ、醉へば叱評す。
バーかナ、オーイ、まア聞ケ
ツと云つた風に……。
今年もまた―
バーカナを聞かせて頂きます

○

石井さんおめでたう!
忘年會の歸りに……
自宅の玄關前で、大きな聲で
『俥屋サン、君に年末賞與をやる!』と
大きな聲で怒鳴つたのは
誰ですか……?
而もその賞與額が……
驚く勿れ、タッタ十錢!!
奧樣御注意遊ばせ!
旦那樣の愛嬌が過ぎますぜ。
今年もまた―
前頭部に異彩を放つ
白髮の一群を……
拜見させて頂きます!

○

西村さんおめでたう!
痩せてる故か、到る處で
私と兄弟かと聞かれます。
だけど・男つ振りは、
勿論あなたに百歩を讓ります
飲んでも醉はず
醉つても騒がず
鴨綠江節で胡魔化すなんて
チット老猾過ぎますぜ!
今年もまた―
居嚙んでの編輯振を
拜見させて頂きませう!

○

野崎さんおめでたう
編輯局に快男子を求むれば
先づテルさんですかね。
テルとなんて優しい號は
どこから割出したんですか。
最も不思議なのは
あなたの聲の使ひ分けです!
猛虎のやうな蠻聲と
處女のやうな美聲は
同じ咽喉とは思へませんね。
醉へば鼻毛の曲藝を演じ
鷹羅轉覆の妙技を有す。
今年もまた―
千變萬化の聲を
聞かせていたゞきます!

一月四日

（舊曆十一月廿六日）▲火曜日　▲丁卯　▲四綠　▲暗劍辰巳　▲赤口　▲尾宿　▲平

▼四綠▲腰物を摑む如き損失ある日常業以外に手出せぬが安全
▼五黃▲圖々しからず唯秩序を守りて進めば案外の利益ある日
▼六白▲薄氷を踏むが如き日獨斷專行大離を醸す食物にも注意
▼七赤▲名も實も共に擧がらざる日男子は女子との交際を忌む
▼八白▲三分通り凶七分通りは吉の日自ら行ひを愼みて上首尾
▼九紫▲上運の日迷ひを去りて眞面目に働かば存外の利益あり
▼一白▲情誼厚き日舊知の人より意外の援助を得るやも知れず
▼二黑▲上へも下へも當り散らしたがる日妄進大失態を惹起す
▼三碧▲發展の日少々の事は腹立たず午前中は殊更都合よき日

一月五日

（舊曆十一月二十七日）▲水曜日　▲戊辰　▲五黃　▲暗劍無し　▲先勝　▲箕宿

新年宴會

▼五黃▲急いでは失敗する日心を正しく持ちて常業を勵むべし
▼六白▲温厚にして吉事續出する日起業開店求職金談結婚皆吉
▼七赤▲按排宜しければ存外の利益を得べく商事大に進んで吉
▼八白▲些細の口舌棒大の爭ひとなる日思惑賣買引取見合て利
▼九紫▲凡て焦らずとも纏りよく且つ大なる收穫を見るべき日
▼一白▲努力した割合には成績の擧がり難き日一切辛抱が第一
▼二黑▲思想に變りを生じ又彌縫のつかぬ難問題に逢着する日
▼三碧▲內外共に縺れを起し易く近親の間柄と雖も愼むべき日
▼四綠▲行き詰りの日焦つても焦つても駄目新事見合萬事は吉

謹賀新禧

全北黃登 片桐農場主　片桐和三　電話六番
全北裡里榮町　永淵時計店　長電話六五番
清州慈惠病院　桐田繁
清州慈惠病院　堀哲夫
清州　安東正
清州　清州服部自動車部　電話二一番
京城永樂町二丁目 德田商會　德田高二　電話三二五番
朝鮮京城本町二丁目 骨董商　伊藤東一郎　電話九九四番
京城府光化門通一九〇　坂本學之　電話三三一四番
安東縣市場通 和洋菓子商　橫濱堂　電話二二三番
洋灰、鋼、鋼山、石工用具、土木、建築、船具、諸機械修理其他金物一式並古銅鐵商 安東縣四番通五丁目　井上鐵工所　電話三百十四番 電信略號井又は井ノウ
滿洲安東驛前 鐵道貨物船舶取扱通關代辨　大正運輸公司　電話一七二一番 振替京城四七八三
安東縣市場通 文具和洋紙雜貨　中原商店　電話三三三番
安東縣四番通五丁目 各國時計貴金屬美術品眼鏡寶石類　小泉金玉堂　電話五二一七番 振替京城七九三〇番
安東縣六番通八丁目 雜穀肥料貿易商精米業　貝原源次郎商店　電話長二二二番 振替大阪六六二一番
安東縣市場通九丁目 株式會社兩替安東取引所仲買店　鈴木岡之進　電話長四三三番 取引所二三二番 中三五九番
安東縣市場 和洋雜貨　今井洋行　電話四五三番
安東縣江岸通　海陸運送業　今成組　電話一五九番
安東縣江岸通 木材商　川崎材木店　電話長二〇九番
安東縣四番通四丁目　戸木清一

湖南線裡里驛前　明治旅館　電話四七番
全北裡里郵便所　小島孫平　電話三番
全北裡里榮町 錢湯　井田新治郎　電話三三番
全北裡里榮町 雜貨商　山崎商店　電話一四番
全北裡里榮町 海產問屋雜貨商　田村龍助　電話五〇番
全北裡里榮町 古著、賣買、有隣生命保險裡里代理店　前田久作商店　電話二一番
湖南線裡里驛前 橋本旅館　友田サイ　電話一三三番
湖南線裡里驛前　朝日屋旅館　太田波平　電話二三四番
全北裡里市場 金物雜貨商　江田住商店　附屬工場　電話一五二番
全北裡里榮町 海產物商裡里座主　加藤久吉　電話一二七番
全北裡里榮町 雜貨卸商 茂若屋　古川薫　電話六九番
全北裡里榮町 雜貨卸商機械特約販賣　土車仁作　電話六二番
全北裡里榮町 代書事務所　草ヶ谷英之助　電話一三五番 振替口座京城七〇三〇番
全北裡里驛前 構內立賣業　村瀬與惣吉　電話六三番
全北裡里榮町 薪炭商　三上惣四郎　電話三七番
全北益山郡廳　山本重人
全北黃登　千々松清一
全北黃登 公立尋常小學校長　久保韓
全北黃登 郵便所長　龜田津太郎
全北黃登驛 運送業繩叺賣買　日向孝治郎　電話五番

前田組 清州出張所
清州郡廳 一同
清州金融組合　齋藤清治
清州 精米製粉　川島工場
清州　安井隆雄
清州本町二丁目　古谷清彦
清州　龜井靜雄
清州本町貳丁目　野田屋製菓商　電話五一番
清州　川島由三郎商店　電話九七番
清州本町貳丁目　前田辯治商店　電話五二番
清州本町二丁目　伊藤商會　電話六五番
清州本町三丁目　青木藥局　電話四五番
清州本町四丁目　大和屋洋服店
清州本町三丁目　松本酒店
清州本町三丁目　ハカマタ商會　電話三〇番
清州本町五丁目　植野精米所
清州旭町　清州上黨金融組合
清州本町五丁目 雜貨商　藤田商店
清州本町三丁目　御料理 可祝
清州本町二丁目　旅館 明治館　電話一九番
清州旭町 海產物、酒、醬油、食糧品、其他乾物一切　松田商店

大田本町二丁目 土木請負業　田島正治
大田春日町一丁目 小間物玩具　村上商店
大田春日町一丁目　ますや商店　取次電話長二五九番
大田郵便局長　入江教平
大田榮町 機業米穀商　內田吏一　電話長四一番
滿鐵大田運輸課派出所 主任　高城榮彦
大田本町一丁目　さわや酒店　電話三一番
大田春日町一丁目 大田名物リンゴカステラ　中田堂
大田本町一丁目　田中洋品店
大田驛前 時計各種貴金屬其他一切　鶴崎時計店　電話長二〇〇番
大田本町一丁目 和洋菓子　村瀬風月堂　電話一四七番
大田本町一丁目 藥種商　三枝藥店　電話長一五六番
忠南大田本町一丁目 小間物玩具商　河西商店
忠南大田本町一丁目 最新式流行履物商　大和屋
大田驛長　武村立誠
大田本町一丁目 陸軍鐵道中學校御用商　田中靴店
大田本町二丁目　矢切賴治　長電話四二番
大田本町二丁目　倉元百一郎
大田本町一丁目 提灯傘　小幡商店
大田本町一丁目 金物商　齋藤恒三郎

大田本町二丁目　小野運輸　長電話一〇七番
大田春日町壹丁目 魚菜市場主　米元元助　長電話一一七番
大田春日町一丁目　井上齒牙技術所
大田本町二丁目 米穀商　石田亨商店　長電話一三番
株式會社漢城銀行大田支店　森永直記　長電話一二番
大田本町貳丁目　懷德金融組合　木村虎吉　長電話一六四番
大田本町二丁目　大田金融組合　電話一六三番
大田本町一丁目 唐箕萬石其他一切　安藤農具店
あけましてお目出たう 相變らず御贔屓に 清州 料理店六石庵內 藝妓　音丸
清州本町三丁目　岡田七藏
清州本町二丁目　興業會社
清州本町三丁目　清州金融組合
清州織居自動車部　電話四三番
三南殖產會社 清州出張所　電話五四番
清州稻荷町　御料理 北一櫻　電話三五番
清州本町四丁目　旅館 清州館

味噌醬油　富山釀造場
大田理髮同業組合
大田本町一丁目
日本生命保險株式會社 大田出張所
忠南大田春日町二丁目 煉瓦、瓦、土管製造元　安井工場
忠南大田　山北貞助　電話長一八番
忠南大田驛前　內國通運會社 大田取引店　電話長二一八番
大田本町二丁目 米穀精米商　若林商店　電話長四六番
大田本町二丁目 繩叺　箕浦商店　電話長五二番
東亞煙草會社元賣捌店 東京海上火災保險代理店　西村哲次郎　電話長一四六番
大田榮町　大正起業株式會社大田支店　電話長一〇七番　野間義夫　活田太一
大田榮町　朝鮮興業株式會社 大田管理所　電話長四八番
大田本町二丁目　久納洋服店　電話長二〇番
忠南大田春日町一丁目　東洋畜產興業株式會社大田出張店　長電二三二番 電略（トチ）
忠南大田春日町一丁目 骨粉製造所　大田製肥商會
株式會社殖產銀行 大田支店　秋吉英二　長電話四三番

釜山富平町壹丁目 土木建築請負　千歲定吉　電話四九〇番
釜山南濱町一丁目　釜山食糧品株式會社　電話四一番
釜山辨天町（長手通）煙草洋酒卸商罐詰　あづまや商店
釜山南濱町 海運各汽船會社用品 御用達　灘光商店　電話一四六番
釜山府埋立新町 米雜穀貿易商　後藤卯三郎商店　電話四九三番
釜山長手通 穀粉輸入商　寺田安次郎商店　電話長八〇六番 振替京城九一二番
釜山本町三丁目　坂田文吉
釜山本町一丁目　岩瀬寫眞器店　電話七五五番
釜山本町一丁目　小宮萬次郎　電話一〇番
釜山府本町四丁目　山村正夫
釜山府大廳町三丁目　日本建具株式會社 釜山支店
釜山府南濱町一丁目　伊藤庄之助　電話三三番

…降らく寒さ…北の日午前中釜山府廳各學校各に氏へて一場の所感演説を述べ…到を極めたり（釜山特電）

釜山の初荷 二日の釜…

大邱 大邱は近年稀なる…賑を極めたり…

大田 元日の拜賀式は午…氏四十三度を示せり（大田特電）…したり當日は曇天にして氣溫…

…式あり終つて例年の如く名刺交換會を催行ひ…（海州特電）

…中に散會せり市中廻禮者の往來頻繁なりき（鳥致院特電）

…會を極めたり當日は曇天にて氣溫華氏五十四度九分を示せり

安東縣 前夜來の雪は元旦に至りて積ること五寸餘…

大連 …三十一日午後十一時公會堂に於て在住民一般の…名刺交換會を開催せり（大連特電）…より北風強く降雪あり元旦午前…

商工業界の打撃（三）

財界變動の朝鮮産業界に及ぼしたる影響

總督府商工課長　田中卯三氏談

支那麻布

支那麻布も亦前年財界好況に依り本春來先物取引に依る輸入旺盛にして一月以降の輸入高七百九十萬圓の巨額に達したるが財界の不況以來價格暴落し荷捌き

俄に不振に

陷れり從つて之が受渡しに勘からず紛擾を釀し一部は解合又は賣拔きに依り解決したるも結局四百萬圓は賣方たる支那人商人の讓歩に依り支拂を猶豫する事となれるが爾來賣れ行き依然不良にして到底年内に資金調達の見込なく明春迄の持越品三四百萬圓に上らんかと觀測せらる

事業界の消長

昨年下半期以來企業熱旺盛となり會社の新設擴張を爲す者續出し本春に入り殆ご其の絶頂に達したるが三月中旬財界

不況の襲來

と共に企業熱一頓挫を來し新會社の計畫中なりしもの既設會社の增資計畫中のもの槪ね中止又は延期の已むなきに至り事業界は著しく打擊を蒙れり然れごも朝鮮に於いては從來會社令の運用により無謀なる事業の濫興を制したるを以て事業界は槪して健全なる發達を遂げ從つて今次の財界反動の爲此の種

會社組織の

企業方面に在りては各業を通じ著しく破綻を生じたるものなしと雖も財界の不振は遂に會社企業の氣先を萎縮せしむるに至れり左に財界變動前後より最近迄の間に於ける新設擴張及解散會社の大要を摘記すれば左の如し

今年の事業會社消長表（右側會社　左側銀行）

月別	會社數 新設	擴張	解散	資本金 新設	擴張	解散
一月	一〇	二	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二月	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三月	二四	一二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四月	一三	四	一	[illegible]	[illegible]	[illegible]
五月	二六	二	四	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六月	八	三四	三	[illegible]	[illegible]	[illegible]
七月	一六	一三	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]
八月	二五	四	五	[illegible]	[illegible]	[illegible]
九月	一四	四	二	[illegible]	[illegible]	[illegible]
十月	九	二	一	[illegible]	[illegible]	[illegible]

附減資したるもの九月中あり減資額三十萬圓なり

前表に依れば今次財界恐慌に依り會社の設立擴張を甚だしく阻止せられたるを認むることを得べく尚内地會社の支店等に就きては著しき變動を見ざるが如きも一部特種商品の取扱を廢止したるものあるが如し

翻つて金融界の狀況を案ずるに昨年八月以來銀行業者は漸く

警戒の態度

に出で金融緊縮の傾向を呈するに至りしが本年に入りても年初尚前年好況の情勢に依り物價及び勞銀の昂騰企業の熾盛商況の活躍等空前の現象を呈し殊に新設會社株金の拂込既設會社の擴張、滿洲産雜穀類の輸入旺盛を極め資金の需要頗る繁なる一方貿易の逆調は資金の流出を促し從つて金融界は絶えず繁忙の裡に漸次緊縮の經路を辿り來りしが三月内地財界の動搖以來

資金の流出

益〻甚だしく而も内地金融の梗塞は資金の流入を妨げ一面株式諸物價一齊に崩落し財界の惡化頗る甚しきものありたるを以て金融業者の警戒一層嚴重を加へ朝鮮銀行は四月貸出金利を二厘引上げ更に經濟界の惡化に伴ひ六月標準金利二厘方の引上げを斷行し其の他の銀行亦之れに追隨して一齊に引上を爲し以て市場に警戒を與ふると共に一方或は地株に對する金融を避け或は一般に擔保價格を低下し或は新規資金殊に

思惑資金を

絶對に拒絶し一方回收に努めし等專ら引締の態度に出でたり從つて鮮内金融は逐日緊縮の度を高め上半期を終りたるが下半期に入りては内地財界は各種施設の實行と共に恐慌狀態を稍脫却して聊か安定するに至り新規資金の減退と相待ちて金融漸次緩和せられ金融業者の手許潤澤となり一方財政關係と相待ちて七月下旬より米引續き其の流入少からざるに拘はらず内鮮豐作により各地

水害の餘波

及虎疫猖獗の惡影響を受けて一層惡化せる人氣幾分引立てり旁鮮内金融は漸次緩和の傾向を呈し殊に金融業者の手許は一層の潤澤となれるも米價を初め物價は引續き低落を重ね財界仍ほ安定を齎さゞるのみならず前途又容易に逆睹すべからざるの狀態にあるを以て金融業者は依然警戒の態度を革めず從つて金融界は十一月以降新穀の出廻期に入るも依然緊縮の域を脫するに至らざるが如く試に鮮内各銀行及び東拓の金融狀況を見るに貸出高は

財界の不況

と金融業者の警戒に依り一月以降漸次減少し預金も亦七月迄は逐月減少せるも八月以降に於て金融の緩和に向ひ殊に内地資金の流入關係に依り漸次增加せり今之れを月別に表示すべし

各銀行東拓貸出預金表

月別	銀行及東拓貸出	銀行預金
一月	[illegible]	[illegible]
二月	[illegible]	[illegible]
三月	[illegible]	[illegible]
四月	[illegible]	[illegible]
五月	[illegible]	[illegible]
六月	[illegible]	[illegible]
七月	[illegible]	[illegible]
八月	[illegible]	[illegible]
九月	[illegible]	[illegible]
十月	[illegible]	[illegible]

本年の産業施設

平安南道知事　篠田治策

平安南道の住民は古來慓悍を以て聞へ李朝時代に在りては爲めに敬遠せられたるにより所謂不逞の志士少からず彼等の中には日韓併合に不平を抱き遂に走りて南滿洲間島又は西伯利等に亡命したる者尠からず彼等は毎々海外より淳良質朴なる在鮮同胞を煽動し一昨年三月萬歲騷ぎの如き本道最先に

多大の影響を

受け政務の進展を阻碍せしもの少からず是が爲昨年の如きは民心の安定と新政の趣旨宣傳の爲苦心と奮鬪との間に一年を經過せり而も教育産業其の他各般の政務は一日も緩ふすべからざるは勿論動もすれば不逞輩の惡誘に因り淳朴なる農家漁民を惑亂せむとする形跡あるを以て是が制御には特に力を盡くせしが幸ひに大なる齟齬を生ぜずして今や漸く安定の機運に向ひつゝあり又此の民心動搖の時に當り忘るべからざる慘事は

一昨年の旱害

にあり安州郡平原郡及順川の沃野二郡の收穫を見ず其の他の諸郡も二歩作三歩作なる慘況を呈し農家の粒々辛苦も殆ご徒勞に等しき現況を見眞に同情に堪へざりしを以て是が救濟保安に付ては總督府力爲する所ありしが總督府の施設其宜しきに適し郡面の職員及民間有力者の熱心なる配慮活動により糧食種穀の需給を充たし爾來昨年の新穀出廻り迄辛くふして持續することを得漸く愁眉を開きしも其の食扶持は甚だ深く是を醫するの策亦決して

容易に非らず

而して此繁忙なる期間に於ても産業施設は本道所定の産業計畫に基きて遂行し一歩も遲延するを許さず著々として進行せしは衷心欣快を禁ずる能はざる處なり殊に昨年は五風十雨の天惠に惠まれ大同郡の篤農家敎稙氏の開墾せし畝穀畑田を始め一般農作頗る豐作を得其の他（一）道内堤堰新設水利組合新設準備の完成（二）畑栗頒布の好成績（三）各種獎勵品種の普及（四）養蠶收繭の增收（五）畜牛增殖（六）林野整理及び營林の進捗（七）家庭手工發達增殖等

悉く豫期通り

進行し民間事業として小野田セメント會社分工場大日本製糖會社平壤工場の如き何れも其の事業を開始し電氣興業會社亦經營を進めつゝあり其他信託會社製菓會社其他二三の新設事業あるも唯鎭南浦久原精煉所の休業は甚だ遺憾に堪はざる處なり更に本年の産業施設に付其數種を擧ぐれば

（一）安州平原二郡に亘る乾沓二萬町歩の水利事業は既に昨年より地主相互の諒解に努めつゝあり本年に於いて本府の援助を受け實行の初期に入らむとす

（二）之れに亞ぎ堤堰及藥狀による灌漑事業は大同中和平原江西順川孟山の六郡に亘り九ヶ所此の灌漑面積合計六千貳十五町歩に對し測量踏査を行ひ其の中三百町歩に對する工事を實施すること

（三）各郡地主會等の共立にて道農會を設け各郡共通に關する農事上必須の業務を行はしむると共に郡地主會の内容充實を圖ること

（四）面農業技手の一半を種苗場に招集し農政及主要獎勵事項を講習し且つ双互の連絡を密接ならしむ

（五）甜菜種子五萬餘英斤（價格約六萬圓）主として米國より購入し之れを大同中和江東三郡内の農家に配與し甜菜を二千五百町歩に栽培せしむ

（六）棉作は豫定計畫の如く一萬四千町歩に作付必行せしむると共に之に要する田圃は成るべく林野及未墾地の開墾を獎勵す

（七）原蠶種製造所の業務を擴張し更に本道に適する各種栽桑上緊要なる試驗を行はしめ之れに要する設備を完成す

（八）蠶繭の增殖は豫定計畫により實行するは勿論更に牛繭取引を主要郡より開始せしめ之れに要する設備を完成す

（九）林野調査を促進せしめ其の調査終了と同時に地主及緣故者を結合し森林組合を組織せしめ施業案を示して造林を督勵せしむ

（十）地方費模範林九百二十九町歩の營林は昨年を以て終了に付本年更に四千七百六十町歩を新たに貸付を受け直ちに造林に着手すること

以上は本年試みむとする腹案にして其の他本道五年計畫の從來より經營せる

各種の施設は

勿論多少の擴張改善を加へて之を繼續すべく此の他水力電氣の製設製材事業商品陳列館改造漁港設置發動機船漁業獎勵固有麻布の改良增殖大共進會の開催等眼前緊要とする事業は屈指に遑あらざるも目下の財政狀態に於ては暫らく隱忍して時機の到るを待ち徐々に實行せむことを期す

各地の元旦

各地共概して近年稀なる暖氣

仁川 四温の元旦寒からず、されご空澄盤にて瑞祥の雪模樣風全くやみて枝を鳴らさぬ靜けき晨に國旗穩やかに流れ往來連綿軒並に飾れて新春の裝ひ何んとなく長閑なり午前十時各學校時を同じうして拜賀の式を行ひ『年の始め』の合唱に年頭の式辭を終れり各官廳にては何れも午前十時拜賀又は遙拜の擧行を爲して年頭の挨拶を交換す仁川神社にては午前十一時より嚴かなる歲旦祭を執行したるが定刻齋主の祝詞玉串捧奠型の如く參列者賀員所定の座に著き神饌供午前十二時三十分終るや、正午奉時には官民の新年祝賀名刺交換會を仁川倶樂部に開催せらる集まる者三百名、府尹の年頭の挨拶に次いで陛下の萬歲を三唱し各自盃を擧げて新春を壽ぐ、瑞氣街衢に滿つ途上屠蘇の機嫌に醉歩蹣跚たる廻禮客の右往又左往する道に一陽來復の春を思はしむ（仁川特電）

木浦 一日午前九時府廳にて拜賀式正午より公會堂にて互禮會を擧行盛會なりき朝來曇天正午の氣溫七度六にて稀有の暖かさなり市中廻禮者夥るが如く賑ひたり（木浦特電）

馬山 朝來雨天年賀式名刺交換會は例年の通り府廳學校にて行はれたり市中寒氣強し（馬山特電）

鎭南浦 元旦の鎭南浦は氣溫六度を示し午前中雨午後に至つて雪となれり午前九時半府廳の拜賀式あり終つて十一時頃日前に於る名刺交換會に移り樂隊の君が代の吹奏にて一同合唱府尹の挨拶ありて開宴、正午當國の萬歲を三唱して退散したり市中の狀況は不景氣の影響を受け比較的寂寞なりき（鎭南浦特電）

義州 平安北道廳にては一日午前十時半より會議室大廣間に於て拜賀式を擧行せり尚官民名刺交換會を催したり（義州特電）

公州 元日の公州は曇天にして氣溫華氏四十四度を示し例年の如く拜賀式官民聯合の名刺交換會あり頗る盛會なりき（公州特電）

咸興 朝來降雪ありしも風なく近年稀なる暖氣にて華氏四十度を示したり各官衙學校にては午前九時より拜賀式あり正午より小學校にて官民聯合名刺交換會を擧行出席者約四百名にて盛會を極め市中亦年賀客の往來にて賑ひたり（咸興特電）

元山 元旦天氣晴朗正午より商業會議所に於て官民の互禮會あり參會者約三百名石原府尹開會の挨拶を述ぶ次いで萬歲を三唱して一時半散會せり市内は樂隊の君が代吹奏其他年賀廻禮者等にて賑ひを呈せり（元山特電）

晋州 午前九時より遙拜式十一時より内鮮人名刺交換會を開催頗る盛會を極めたり氣溫零下二度（晋州特電）

曙　第三十三回

德田秋聲　（挿畫）近藤紫雲

溫泉へ(2)

絢子はそれで、其儘宿へ歸つたが、心の中では最早あの紳士を白井に決めて了つてゐた。然うなつて行く自分の心を、彼女は不思議に思つた。自分の心の何處かの隅に、まだ白井と云ふ幻が影を潛めてゐたのだと思ふ、彼女は人知れず悚然とした。彼を思ひ出すだけでも、現在の自分として罪惡のような氣がしてならなかつた。しかし思ふまいとしても、それは歲月だつた。五年前のことが、彼が女の所へよく出入してゐた時のことが、さうして、彼に對して自分がある親愛を感じてゐたことが、次から次へと憶ひ出されて絢子は其晩殆ごまんじりともしなかつた。

『だけご、五年振りで、而もこんな處であの人に邂逅ふことは何と云ふ不思議な因緣だらう！』

絢子は然う思つた。と、急に今までの寂しさが忘れられるような氣がして來た。

擦違つても聲をかけるのが、雙方共何だか極りの惡いような疏遠な仲になつて了つたので、白井が假令此溫泉場へ來てをればとて、彼の女の孤獨の感じが別に紛らされる譯はない筈ではあつたが、しかし五年前の懷かしい思ひ出が、不思議に絢子の感情を唆り立てるのであつた。そして、其感情は今の良人に對して抱いてゐる、人の妻らしい愛情とは、一種異つた優しい淡い情緒であつた。さうしてまた彼が何處に泊つてゐるにしても孰れ目と鼻の、同じ此溫泉場の何處かにゐるのだと思ふと、一層懷しみが加はるのであつた。

しかし、それと共に絢子はまた、一種の不安を感じない譯に行かなかつた。島家へ嫁して五年、貞子と云ふ子までおる現在の自分の心に、まだ白井の印象がそんな意味で殘つてゐることは、彼の女にとつては甘い惱みでもあり、苦痛でもあつた。良人の外に愛すべき男があつたとしたら、假令それが心の底に秘められた戀心であり、既に實を結ばずに終つた戀であるにしても、人妻としては最早許されない罪である。彼女は思つた。

朝、絢子が目を覺したのはまだ六時頃であつた。吼くような水の音が先づ耳について、雨でも降つてゐるのかと、硝子越しに外を眺めると、つい其所の窓際に枝を差交してゐる楓の若葉がぱつと朝日を受けて、そよ〳〵と風に戰いでゐた。初夏らしい碧い空の色も、そこから見透された。

次ぎの間に寢んでゐるお絲はまだ夢の中らしい。貞子もすや〳〵と母の傍で眠つてゐた。絢子は直ぐ起きやうともしなかつた。考へることもなく茫然と天井を見詰めてゐる彼女の眼の中へ、またしても昨夜の白井の浴衣姿が分明と浮んで來た。幾らか禿上つた廣い額、金縁眼鏡の下からちろ〳〵と自分を見詰た目、濃く黑い口髭、男らしい大きな其の體容など、さうしたものが、此五十年ばかりの間にめき〳〵發展して來た彼の知識や、手腕や、經驗や、總て彼の人格を想像せしめるに十分であつた。良人の辰衞にしても、決して下劣な人間ではなかつた。愚鈍な男ではなかつた。しかし、今久し振りでちらと見た白井に比べると、風彩からしてごこか安價であつた。同じ頭腦を働かせてゐる人間ではあつても、卑しいように何となく俗世間的で、感じがうに彼の女には思はれて來た。

しかし、然う思つただけでも、心から自分を愛してくれる辰衞に濟まないような氣がして、絢子は我ながら疎ましかつた。

『あゝ、こんなことを思つては不可ないわ』絢子は然う呟いて動搖しようとする自分の心に鞭つた。

半時間の後には絢子は貞子と共に、朝の湯に浸つてゐた。清くすんだ湯の中に、此頃幾らか肉をもつて來た彼の女の白い膚と、貞子の圓々とした體が、分明と透き通るように美しく見えた。ころけるような、暢りした氣持に浸りながら、絢子は昨夜のことは全然忘れたやうになつて、朝の新鮮な浴場氣分を享樂してゐた。と、そこへお絲が、いろんな湯の道具を持つて入つて來た。

募集漢詩

課題『新年寄友』　高野竹隱選

沈赫南

柏葉椒花祝四隣。頒來鳳曆十年新。婢娟娜眼裁成日。共作春風臺上人。

賀屋京山

萍浮梗泛各西東。重值新年感不窮。浪迹淹留千里外、夢魂來往故園中。鄭肥衣策君乘馬。彫琢文章我雕蟲。滑稽江雲相思切。漫斟椒酒對鄰翁。

李秉浚

昨夜韓文已送窮。熊魚吉夢皆占豐。問君壽福幾何豪。可惜英雄漸作翁。

金容琦

風雨雪霜送舊年。梅花欲笑小床前。此時千里思良友。無限情懷十字傳。

金容重

旅館寒燈坐不眠。寄君滿紙縱橫字。天明猶見已、年。一寸丹心千里傳。

辭盡意不盡

内地旅行中に付年始の禮を缺き申候

京城吉野町一丁目九一　吉澤德次郎

新玉の御ことぶき目出度申納候

松旭齋天勝

妾一行三四月の頃參演仕べく何卒舊倍の御引立のほご願上候

日本簿記學校　東京市芝區櫻川町十一

[illegible]

大正十年一月七日ヨリ授業開始

實業之日本新年號

大正十年の財界豫測

實業界の代表的意見此處に集中す疑問の大正十年始めて解決す

▲景氣の回復は本年のイツ頃か……正金銀行頭取　梶原仲治
▲新活動に備ふる大整理の時代……東京商業會議所會頭　藤山雷太
▲貿易不振、物價下落、金利低落……三井物産會社常務取締役　南條金雄
▲財界の推移と物價の落附く程度……日本興業銀行總裁　土方久徵
▲日本船舶の實需要數と海運界……日本郵船會社取締役　中島滋太郎
▲九年度の如き動搖再び來るか……專務取締役　清水文之輔
▲御賓相場の下落と相場の下落……法學博士　河津暹
▲大正十年度の觀測と其對應策……法學博士　添田壽一
▲實業之日本社の大觀する十年度の豫測

▲經濟界の局面打破を絶叫す▼

◇ビジネス・バロメーター　實業之日本主筆　都倉義一

各種の統計材料を蒐集し科學的に經濟界の消長を測定する新機關

日本を襲ひたる恐慌　何故米國を襲はぬか　戰後に於ける日米兩銀行活動の對照　前相談役　勝田主計

◇大正九年財界破綻の主因を論じて猛省を促す……前主計局長　鶴見左吉雄
◇歐米のダンピングは東洋市場に逆襲し來るか

◇新士道の提唱（新年劈頭の新目標）　社長　增田義一

「日本に於ける日本國民の道德」は落士道である「世界に於ける日本國民の道德」は即ち新士道である今や將來の古型を打破る時は來た我社は此新目標を掲げて全國民に宣傳せんと欲す

◇資本家の社會化（資本制度の根本的制度の全盤社會の過激化を藥力に依らしむる責任者は誰ぞ）　帆足理一郎
◇中流階級猶ほ不安（如何にして救濟すべきか）　法學博士　鹽澤昌貞

科學的若返り法　醫學博士　永井潜

悲しむ勿れ茲に若返りの法研究された研究者は權威あるウインナ學士院生物學研究所長スタイナハ氏、此發表は氏が十年間慎重なる研究の結果で紹介者は斯道の大家永井博士である見よ近代科學が如何に人生の秘密を驚天動地的に展開し來るかを

特掲讀物

◇鶴龜論（果して鶴は千年龜は萬年か）　理學博士　三宅恒方
◇正氣論（新年の浩然天地正大の氣を吐く）　仲小路廉
◇人相論（相見とは誰が人）　鄉誠之助
◇精神の衞生（新年から此心掛け肝要）　富士川游
◇新聞記事の讀方　慶大教授　板倉卓造
◇衣食住改良論　工學博士　關野貞

◇酉年生れの實業家
◇每年正月伊勢參宮の名士
◇全國實業家夫人年齡番附
◇諸會社積立金番附
◇新年の氣分……文學士　上野陽一
◇余の漫畫帖……工學博士　伊東忠太
◇（財界の大動脈）安田系の銀行
◇北海に輝く理想鄉の建設者
◇（健康長壽に達ふ）日常生活法……醫學博士

◇知れりや財界暗中の整理役者……芳水

今次の財界大恐慌に際し暗中人知れず救濟整理に奔走して沈沒の運命に陷つた大船小船を引揚げ血と涙とを傾け盡した巨彰あり名聞を避け社會に奉仕した其人を知る者ありや

◇財界の葛藤　大倉川崎兩社の訴訟事件

◇電鐵界の覇者阪神電鐵の解剖……芳水生
◇各會社の配當減

▼古例問答（名士三百名に發した問に對し回答續々來る）

【問】貴下が若い時覺えて置けばよかつたと思はるゝ事
【問】貴下の御長男は今ま何を爲して居らるゝか

◇俸給生活者の貯金增加法……（六十圓の月給から逐次增財して三千圓の土地を求めた一敎員）
◇三菱へ昨年入社したる商科卒業生より同科生へ實驗告白

（剖下の財界の飛彈）**水力電氣業の大勢**　芳水生

財界不況の最中に水電株は萬丈の氣焔を吐いて居るのは如何なる譯か……此時此際水電事業の大勢に暗きは時代後れの大……るもの見よ、乎物！

本號六十錢　郵稅貳錢　半年四圓　一年八圓十八錢

東京京橋　實業之日本社　振替東京三二三六番

汽車時刻

京釜線

湖南線

京義線

馬山線

京仁線

大正九年十二月廿一日改正

明治天皇御製

目に見えぬ
神の心に通ふこそ
人のこころの
誠なりけれ

仁丹は原薬の精
選を生命とし、
金言による薫化
済世を使命とす

消化と毒けし

醫學博士三輪先生
醫學博士井上先生
御方劑

仁丹

本舗大阪市森下博藥房

謹賀新春

大正十年一月元日

仁丹本舗

森下博藥房